

## 巻頭写真



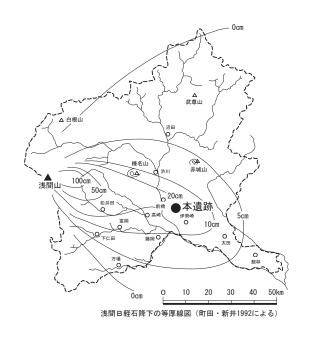
A区2号南北・1号東西大畦畔 (上が北)



A区2号南北・1号東西大畦畔交差部(北西から)

# 南部拠点地区遺跡群No.8

前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2014.3

前橋市教育委員会 前橋市南部拠点西地区土地区画整理組合 有限会社毛野考古学研究所

### 例 言

- 1 本書は、前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴い実施した、南部拠点地区遺跡群No.8の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、前橋市南部拠点西地区土地区画整理組合の委託を受け、 有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は同研究所員 井上 太である。
- 3 発掘調査・整理作業の実施期間は、平成25年11月18日~平成26年3月26日である。
- 4 本調査の調査区の地番、面積及び遺跡番号、並びに略称は下記のとおりである。

所在地地番:前橋市亀里町943-2 外18筆 面積:6,365 m²

遺跡番号:00785 略称:25G82

- 5 本調査の遺構測量は、小出拓磨(有限会社毛野考古学研究所員)が担当した。
- 6 本書の編集は有限会社毛野考古学研究所が行い、井上が担当した。
- 7 本書の執筆は、I を福田貫之(前橋市教育委員会)、その他を井上が担当した。
- 8 調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
- 9 発掘調査・整理作業に関わった方々は下記のとおりである。(五十音順、敬称略。)

[発掘調査] 青木あつ子 青木麻耶 赤見公一 浅野真治 荒木巻夫 井口ヒロ子 石倉稔夫

井上ゆかり 碓井俊夫 岡村美弥子 落合智恵美 金田 守 神山春示 亀田浩子 川上善平川田敏夫 川島隆好 菊池文男 楠本正樹 佐藤幸子 篠原孝宏 清水千代 鈴木 浩 芹沢貞夫 高橋奈緒 高林 操 武井みち子 竹生正明 勅使河原幸枝 都丸夏雄 永井述史中島久子 庭山皓正 萩原秀子 橋元裕児 堀口聖一 堀越国光 松井昭光 松倉秀樹 森山恵子 矢島義秋 山本良太 山田哲也

[整理作業]青柳美保 合田幸子 高橋奈緒

10 発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、以下の機関・方々のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる。(順不同)

櫻井和哉 株式会社ベイシア 清水建設株式会社

### 月. 例

- 1 挿図の座標北には、世界測地系(国家座標第IX系)を使用した。方位記号は座標北を示す。
- 2 等高線や断面図中における水準値は、海抜標高を示す(単位:m)。
- 3 掲載の遺構図及び遺物実測図の縮尺率は、各挿図中にスケールで表示した。
- 4 グリッドは、原点(X=37,300·Y=-67,400)より、西から東へX0、X1…、北から南へY0、Y1…と付した。
- 5 本書中のテフラの呼称は、下記のとおりである。

As-A、A軽石: 1783年(天明3年)に噴出した浅間Aテフラ。

As-B、B軽石: 1108年(天仁元年)に噴出した浅間Bテフラ。

Hr-FA、FA: 6世紀初頭に噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ。

本書掲載第1図には、国土交通省国土地理院発行の1/200,000「長野」・「宇都宮」、第2図に同院発行の1/25,000地勢図「前橋」・「高崎」、第3図には「前橋市都市計画図」1/2,500を一部加工して使用した。

7 表紙には、『昭和61年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。

# 目 次

例言	i			Ш	調査	至の方法と経過	4
凡例	ñ				1	調査の方法	4
目光	Ż				2	調査の経過	5
挿図	図目次			IV	遺跡	がの概要	6
表目	]次				1	遺構・遺物の概要	6
写真	真図版	<b>夏</b> 目次			2	基本層序	6
				V	検出	遺構	7
Ι	調査	Eに至る経緯	 1		1	A 🗵	7
Π	遺跡	下の位置と環境	 1		2	B 🗵	21
	1	地理的環境	 1		3	C 🗵	24
	2	歴史的環境	 2	VI	まと	: b	33
				写真	区別	Ž	
				抄鉤	i.		

# 挿図目次

第1図	遺跡の位置	1	第11図	A区溝跡(2)	16
第2図	周辺の遺跡	3	第12図	A区土坑 ————————————————————————————————————	19
第3図	調査地位置図	4	第13図	B区全体図及び断面図	22
第4図	調査区全体図	5	第14図	B区水田跡水口	23
第5図	基本層序	6	第15図	B区溝跡	24
第6図	A区全体図及び断面図(1)	8	第16図	C区全体図及び断面図	25
第7図	A区全体図及び断面図(2)	9	第17図	C 区溝跡	27
第8図	A区全体図及び断面図(3)	10	第18図	C区土坑	29
第9図	A区2号南北・1号東西大畦畔交差部	11	第19図	条理型区画推定図	33
第10図	A区溝跡(1)	13			

# 表目次

第1表	周辺遺跡検出遺構	2	第3表 溝跡一覧	31
第2表	水田区画計測表	30	第4表 土坑一覧	32
	7	写真図牌	<b>反目次</b>	
巻頭写真	真		PL. 6	
A区	2 号南北・1 号東西大畦畔		A区東端部水田区画 31 ∼ 43	
A区:	2 号南北・1 号東西大畦畔 交差部		2号南北大畦畔・W-19号溝	
PL.	1		2 号南北大畦畔·W -19 号溝	
調査均	地より浅間山方向を望む		2号南北・1号東西大畦畔	
調査	区全景		2 号南北・1 号東西大畦畔 交差部	
A 🗵			PL. 7	
PL.	2		2号南北・1号東西大畦畔 交差部	
$A \boxtimes \overline{B}$	西半部		2 号南北大畦畔・W -19 号溝 土層断面	
A区J	東半部		2号南北大畦畔・W-19号溝 土層断面	
PL.	3		東端部水田区画 $36\sim43$	
A区	西端部水田区画 1 ~ 9		水田区画 39・42 間 畦畔土層断面	
水田	区画1・3間 畦畔土層断面		₩ - 1 ~ 3 号溝	
1号	南北大畦畔		W-1・2号溝 土層断面	
1号	南北大畦畔		W-3号溝 土層断面	
1号	南北大畦畔 土層断面		PL. 8	
PL.	4		W - 4 ・ 5 号溝	
水田	⊠画 12 ~ 28		W-4号溝、W-5号溝 土層断面	
水田	区画 12 ~ 21、W −11 号溝、1 号ピットタ	il]	₩ - 6 ~ 10 号溝	
水田	区画 14・15 間 畦畔土層断面		W-8号溝、W-9号溝 土層断面	
水田	<b>⊠</b> 画 12 ~ 27		W -11 溝 土層断面	
水田	<b>区画</b> 23		W -12 ~ 14 号溝	
PL.	5		₩ -12 号溝・13 号溝・14 号溝 土層断面	
水田	区画 18・21 間 畦畔土層断面		W -15 号溝	
水田	<b>区画 26 耕作痕</b>			
水田	区画 21・28 間 畦畔土層断面			

水田区画 28 南西隅部 窪地

A区中央付近

### PL. 9

- W-15 号溝 土層断面
- W-16号溝、W-17・18号溝・攪乱大溝
- W-16 号溝 土層断面
- W-17·18 号溝 土層断面
- W-20 号溝
- W-20 号溝 土層断面
- D 1 号土坑
- D 2 号土坑

### PL. 10

- D-3号土坑
- D-4号土坑
- D-5号土坑
- D-6号土坑、D-7号土坑
- D-8号土坑
- D-9号土坑
- D-10 号土坑
- D-11 号土坑

### P L. 11

- D-12 号土坑
- D-13 号土坑
- D-14 号土坑
- D-15 号土坑
- D-16 号土坑
- D-17 号土坑
- D-18 号土坑
- D -19 号土坑

### в 🗵

### PL. 12

- B区東半部
- B区西半部
- 水田区画1・2間 畦畔
- B区東半部
- 水田区画5・6間 水口

### PL. 13

水田区画3・4間 畦畔土層断面

- W-1号溝
- W-2号溝
- W-2号溝 土層断面
- W-3~6号溝
- W-3号溝、W-4号溝
- W-5号溝
- W-6号溝

### C 区

### PL. 14

- C区全景
- C区全景

### PL. 15

- 1号南北大畦畔
- 1号南北大畦畔、W-4号溝
- 水田区画7·11間 水口
- 水田区画 12・13 間 水口
- 水田区画4·7間 畦畔土層断面
- W-1·2号溝
- W-1号溝 土層断面
- W-2号溝 土層断面

### PL. 16

- ₩-3・5~7号溝
- W-3号溝 土層断面
- W-3・6・7号溝 土層断面
- W-4号溝 土層断面
- D-1号土坑
- D-1号土坑 土層断面
- D 2 号土坑
- D 3 号土坑

### P L. 17

- D-3号土坑 土層断面
- D 4 号土坑
- D 5 号土坑
- D 6 号土坑
- D-6号土坑 土層断面
- D 7号土坑
- D-7号土坑 土層断面
- D-8号土坑

### I 調査に至る経緯

平成25年6月5日付けで前橋市南部拠点西地区土地区画整理組合より埋蔵文化財確認調査依頼が前橋市教育委員会に提出され、同年7月3日~8月30日にかけて試掘調査を実施し、浅間B軽石で覆われた水田跡を確認した。試掘調査に際しては、開発面積が広大であるため原則20mピッチでトレンチを設定し、重機により遺構確認を行なった。なお、試掘面積は8,659㎡であった。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、設計変更は不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成25年11月12日付けで前橋市南部拠点西地区土地区画整理組合、民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年11月18日から現地調査が開始された。

なお、遺跡名称「南部拠点地区遺跡群No.8」の「南部拠点地区」は区画整理事業名を採用し、数字の「No.8」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

### Ⅱ 遺跡の位置と環境

### 1 地理的環境

本遺跡は、前橋市域の南東部「前橋台地」の後背湿地に立地する。前橋台地は、約2万年前の浅間山噴火による山体崩壊を起源とする「前橋泥流」が、利根川によって赤城・榛名山間から関東平野に流出する部分に堆積して形成された扇状地性台地である。台地上にはその後の中小河川の浸食によって、北西から南東方向に多くの自然堤防・後背湿地が形成されている。台地の東辺は、利根川の旧流路である広瀬川低地帯の段丘崖によって画されている。この崖上には高燥な地形が帯状に連なり、西方には高崎市・玉村町にかけて広大な水田地帯が広がっている。現在この水田域の中を、中世に流路が変流したと考えられる利根川が貫流しており、調査地は現在の利根川の左岸から200m前後に位置する。東方には前橋台地北部の湿地帯に源をもち、古墳時代から水田開発に利用されてきたと考えられている「端気川」が南流している。



第1図 遺跡の位置

### 2 歴史的環境

本遺跡周辺の前橋台地東半部では古墳時代以前の遺跡の立地は非常に少ない。ここでは遺跡数が急増する古墳時代以降の様相について記していく。

古墳時代前期には周辺の自然堤防や微高地上に多数の集落が立地してくる。また、低地部においても横手湯田遺跡などでは周溝状の配水施設を伴う住居跡が検出されている。前代までとこのように大きく様相が変わる背景として、台地上の小河川の利用や用排水路の開鑿などによる低地部の水田開発が考えられている。 4世紀初めの As-C 層関連の水田跡は、11 遺跡で検出されている。また、徳丸仲田 II 遺跡では堰を伴った大規模な用水路が発見され、広範囲に及ぶ組織的な大開発が行われたと考えられている。さらに、朝倉工業団地遺跡群No.2 では集落域の周辺とみられる部分で、この時期の畑跡が検出されている。

また、これらの水田開発を主導したとみられる首長層の墳墓が築かれた地として、台地の東辺に朝倉・広瀬古墳群が分布している。古墳前期に限っても、全長 130 mの東日本最大の前方後方墳である前橋八幡山古墳、129 mの前方後円墳で三角縁神獣鏡などを出土した前橋天神山古墳が占地している。上記の水田域を生産基盤とした、当時の毛野地域を代表する勢力であったと考えられている。また、同時期の円墳である朝倉Ⅱ号古墳のほか、公田東遺跡では前方後方形周溝墓も検出されている。

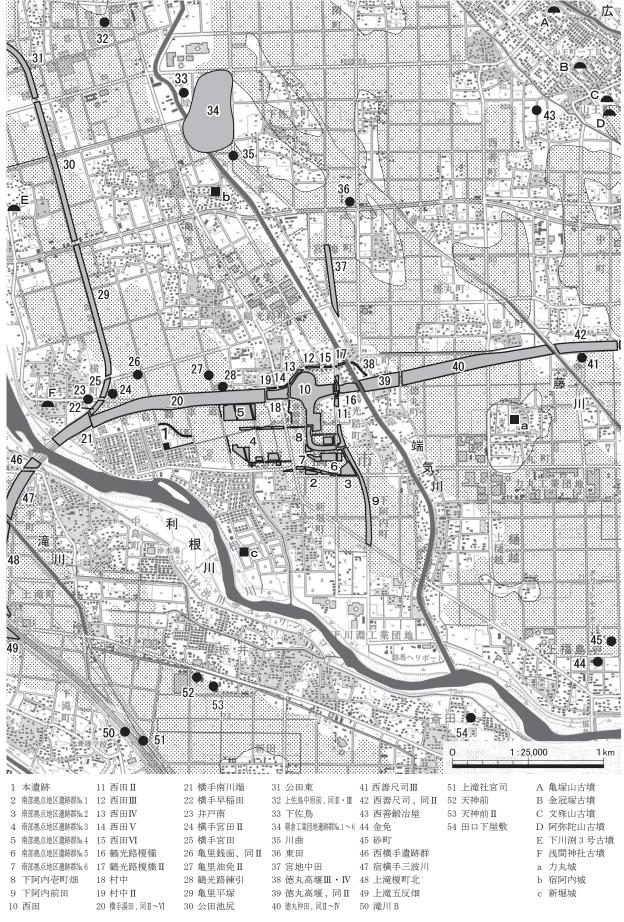
古墳時代中期から後期の集落遺跡は今のところ発見例がやや少ない。しかし、水田跡はHr-FAやHr-FP層に関わる水田跡が22遺跡で確認され、さらなる水田域の拡大が想定される。このため集落域は前期とは地点を替えて存在するものと考えられる。水田域の拡大に伴い集落域が移動している可能性がある。また朝倉・広瀬古墳群ではその後も7世紀代まで有力古墳の築造が続き、全体としては150基以上の古墳が存在したことが判明している。古墳時代全般を通じて県内最大級の古墳群といえよう。

奈良平安時代では、再び周辺の微高地上に広く集落が展開してくる。西善尺司遺跡やその東方の中内村前遺跡などでは大規模集落が発見されている。水田域は周辺一帯でも条里制の施行が考えられ、さらに水田域を拡充するために集落域の再編が行われたことが考えられる。平安時代末期のAs-B層直下の水田跡は周辺のほとんどの遺跡で検出される状況で、その区画は条里区画を継承していることが判明している。

中近世については、本地域の大きな特色として環濠遺跡群の存在があげられる。南の玉村町にかけての一帯には、現在でも方形を基調とする濠をめぐらせた屋敷地や寺院などが散在している。前橋市域だけでも数十カ所に上り、さらに環濠の一部と考えられる溝跡が検出されている遺跡も数多い。周辺の宿阿内城址・力丸城址はこのような環濠屋敷が複合・発展した形態ととらえられ、那波氏一族に関連する室町・戦国期の城館址と考えられている。

第1表 周辺遺跡検出遺構

遺構の種別 遺跡表示番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	As-C 混土層										0								0								
	As-C 混土層上									0																	
古墳時代の 水田跡	Hr-FA 層下		0				0		0		0										0	0	0				
古項時代の 水田跡	Hr-FA 洪水層下					0																					
	Hr-FP 層下																				0		0				
	Hr-FP 泥流層下																					0		0			
古墳時代の竪穴住居跡																					前中		前中				
奈良・平安時代の水田跡		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
奈良・平安時代の竪穴住居跡											0		0			0	0	0									
	As-B 混土層													0							0		0		0	0	
中・近世の水田跡	As-A 層下																										
	復旧溝など								0	0							0				0	0	0			0	
	館跡など								0		0			0			0		0		0	0					0
中・近世 その他の遺構	火葬土坑																					0					
	土坑墓									0	0						0		0			0					
遺構の種別 遺跡表示番号		27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	52	53	
	As-C 混土層		1			0								0	0							0	0				
	As-C 混土層 As-C 混土層上				0	0			0					0	0						0	0	0				
the thought of the transfer				0	0	0			0					0	0		0				0	0					
古墳時代の 水田跡	As-C 混土層上			0	0	0								0			0				0	0	Ō				
古墳時代の 水田跡	As-C 混土層上 Hr-FA 層下			0	0	0			0					0			0				0	0	Ō				
古墳時代の 水田跡	As-C 混土層上 Hr-FA 層下 Hr-FA 洪水層下			0	0	0								0			0						Ō				
古墳時代の 水田跡 古墳時代の竪穴住居跡	As-C 混土層上 Hr-FA 層下 Hr-FA 洪水層下 Hr-FP 層下			0	前後	O ()		後		後				0			0					0	0				
	As-C 混土層上 Hr-FA 層下 Hr-FA 洪水層下 Hr-FP 層下	0	0	0		後 〇	0	後	0	後	0		0	0	0		0			0		0	0	0	0		
古墳時代の竪穴住居跡	As-C 混土層上 Hr-FA 層下 Hr-FA 洪水層下 Hr-FP 層下	0	0		前後	後 0	0	後	<ul><li>後</li></ul>	後	0	0	0	0	前			0	0	0	0	0	0	0	0		
古墳時代の竪穴住居跡 奈良・平安時代の水田跡	As-C 混土層上 Hr-FA 層下 Hr-FA 洪水層下 Hr-FP 層下	0	0		前後	後 0	0	後	○ 後 ○	後	0	0	0		前			0	0	0	0	0	0	0	0		
古墳時代の竪穴住居跡 奈良・平安時代の水田跡	As-C 混土層上 Hr-FA 層下 Hr-FA 洪水層下 Hr-FP 層下 Hr-FP 泥流層下	0	0	0	前後	0	0	後	○ 後 ○	後	0	0	0		前			0	0	0	0	0	0	0	0		
古墳時代の竪穴住居跡 奈良・平安時代の水田跡 奈良・平安時代の竪穴住居跡	As-C 混土層上 hr-FA 層下 Hr-FA 洪水層下 hr-FP 層下 Hr-FP 泥流層下 As-B 混土層	0	0	0	前後	0	0	後	○ 後 ○	後	0	0	0		前			0	0	0	0	0	0	0	0	0	
古墳時代の竪穴住居跡 奈良・平安時代の水田跡 奈良・平安時代の竪穴住居跡	As-C混土層上 Hr-FA 層下 Hr-FA 洪水層下 Hr-FP 層下 Hr-FP 泥流層下 As-B 混土層 As-A 層下	0	0	0	前後	0	0	後	○ 後 ○	後	0	0	0 0		前			0	0	0	0	0	0			0	
古墳時代の竪穴住居跡 奈良・平安時代の水田跡 奈良・平安時代の竪穴住居跡	As-C混土層上 出ーFA 層下 出ーFA 洪水層下 出ーFP 源下 出ーFP 泥流層下 出ーFP 泥流層下 出ーFP 泥流層下	0	0	0	前後	0	0	後	後 〇	後	0	0	0 0	Ŏ	前〇〇	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	



第2図 周辺の遺跡

### Ⅲ 調査の方法と経過

### 1 調査の方法

本遺跡地内はすでに前橋市教育委員会による試掘調査が実施されており、その調査成果と今回の開発事業の内容からA区からC区の調査区が決定された。調査対象地内にはAs-B層下の水田跡がほぼ全域に展開しているとみられ、調査区は区画整理事業の道路建設等の工事で遺跡に破壊が及ぶ部分である(第3図)。

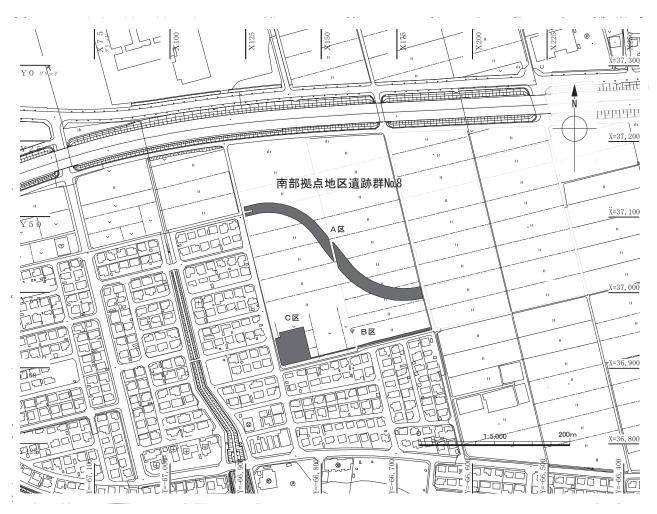
主な調査対象はAs-B層下の水田跡であり、調査面積はA区、B区、C区で、合計6,365 m<sup>2</sup>であった。

調査はA区の西端部から着手し、A区東端部まで終了後C区を調査。最後にB区を西から東方向に調査した。

調査の方法は、表土からAs-B層の上部まではバック・ホーで掘削し、As-B 層の遺存しない部分についてはAs-B 層の下にあたる層位まで掘削した。このため、As-B 降下以後に開鑿された溝跡などの遺構についてはすでに検出時に上部が失われたものが多いが、土層断面の観察などによりできる限り本来の掘り込み面の確認に努めた。重機掘削後は人力により遺構確認と遺構の検出にあたった。

遺構の精査後は写真撮影、測量図面等の記録を作成した。写真撮影は、35 mmモノクロフィルム及びリバーサルフィルムと、デジタルカメラで撮影し、全体の遺構検出終了後に空中写真撮影を実施した。図面測量は、平面図はトータルステーションを用いて作成し、断面図は手実測で1/20縮尺で実施した。

検出された遺構は調査区別に、時代などに関わらず検出順に種類毎に記号番号を付した。記号は、Wは溝跡、 Dは土坑を表している。本書では調査時の遺構番号をそのまま使用している。



第3図 調査地位置図

### 2 調査の経過

平成25年11月18日より調査に着手。まず21日までに、基準杭や調査区の設定、、器材の搬入、現地事務所用プレハブ・トイレの設置などを行う。11月19日からは重機による表土掘削をA区の西端部から開始した。A区東端部までの表土除去が終了したのは29日で、引き続き12月2日からC区の表土掘削を開始した。C区では排土の搬出のためクローラーダンプを併用し、9日に作業を終了した。

この間、22日からは作業員による遺構検出作業をA区の西端部から開始した。

B区の表土掘削は12月12日から開始し、16日に終了した。

A区では遺構検出作業を順次東方へ進め、A区東端まで終了したのは12月26日であった。27日からはC区の遺構検出作業を開始した。平成26年1月9日にはC区と併せてB区も遺構検出を開始し、両区とも14日に作業を終了した。

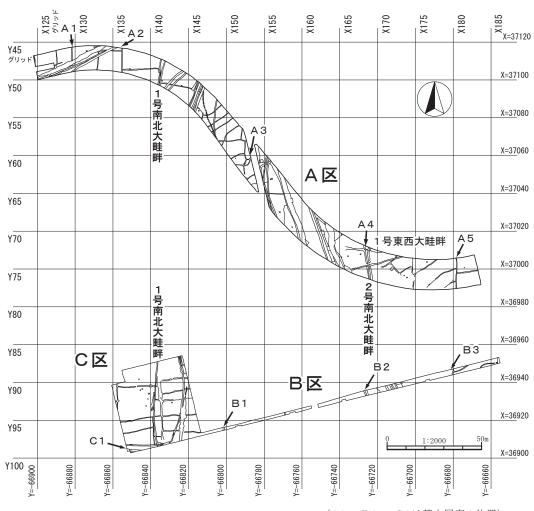
15日・16日はA区の補足調査を実施し、16日から21日にかけては空中写真撮影の準備のため、調査区内の 防水シートの撤去と全体の清掃作業を実施し、22日にラジコンへリによる空中写真撮影を実施した。

この間、1月6・7日、17~21日には測量業務を実施した。

23 日は水田面の補足調査のほか、器材の撤収、24・25 日は器材の撤収と測量業務を実施した。

27日には現場事務所のプレハブ・トイレを解体・撤去し、現地の作業をすべて終了した。

整理・報告書作成業務は、平成26年2月から3月にかけて有限会社毛野考古学研究所において実施した。



(A1···、B1···、C1は基本層序の位置)

第4図 調査区全体図

### IV 遺跡の概要

### 1 遺構・遺物の概要

検出された遺構は、A区では平安時代末のAs-B層直下の水田跡及び溝跡2条、ピット列1列、平安末から中世の溝跡7条、土坑11基、中世以降のAs-B混土層の溝跡7条、土坑8基、近世以降の溝跡4条で、B区では平安時代末期のAs-B層直下の水田跡、中世以降の溝跡6条、C区では、平安時代末の水田跡及び土坑1基、中世以降の溝跡7条、土坑7基であった。

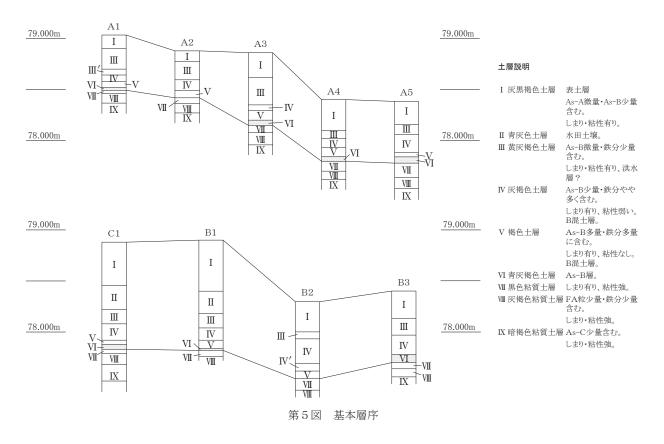
A s- B層直下の水田跡は、すでにA s- B層が遺存しなかったA区W-15 号溝から東方の現代の攪乱大溝の間では検出されず、また、B区でも東端部付近以外ではA s- B層の依存状況が悪く水田跡は検出されなかった。A区の部分は後世の大規模な削平がVII層の上面にまでおよんでいたことによるものであることや、A s- B層下水田跡の床土となっているVII層の面は調査区の全体に堆積が確認できることから、本来は全面にA s- B層下の水田跡が展開していたと考えられる。

遺物は後世の溝跡を中心に、土師器や須恵器、陶器などの小破片が少量出土したのみで、本書に掲載するものはなかった。

### 2 基本層序

調査地全体の現地形は、A区の西端部付近が高く、南東方向にゆるやかに傾斜している。B区東端との高低差は70cm強ほどである。C区からB区西半部の現地表面はA区の西端部とさほど高低差のない畑地として利用されていたが、表土層の上部には過去の圃場整備によるとみられる厚い客土層が存在しており、本来はA区の西端部より40cmほど低く、他と同様に水田であったと考えられる。

Ⅱ層は、このC区からB区西半部にのみ残存しており、圃場整備の際に削平されずに残ったものと考えられる。 V層はB区東端付近では認められず、VI層のAs-B一次堆積層は、B区中央付近の調査区内で最も低い場所や、 逆に高いA区西半の一部では残存しなかった。VII層以下の土層は調査区内全域で認められた。



### V 検出遺構

### 1 A 区

As - B層(VI層)は、X 142 から 145 グリッド付近の調査区北辺部では層位としては認められず、VII層上面の細かな凹凸の内部に残存する程度であった。またW - 15 号溝の西側からW - 17・18 号溝にかけての間(X 156~X 164 グリッド)は、VII層まで及ぶ比較的新しい時期の雛壇状の造成が行われており、As - B層はすでに削平されていた。そのほかの部分では全域にAs - B層が確認され、下部から水田跡が検出されている。以下、中・近世のものも含めて種類、遺構番号順に記載する。

### 1 As-B層下水田跡 (第6~9図、PL.3~7)

位置:調査区のほぼ全体にかけて検出された。 重複:水田跡と同時期の存在は、直接As-B層に埋没していたW-9号溝・19号溝、1号ピット列のみで、その他の検出された遺構はすべて後世のものである。

**地形**: 北西から南東方向にゆるやかに傾斜する地形で、すでにAs-B層が削平されているとみられるX142から145グリッド付近は、本来もう少し高い地形であったと考えられる。

**畦畔**: 西半部の中央付近で1号南北大畦畔が検出された。検出長は14mで、わずかに屈曲している。上部は削平されて平坦になっており、高さは4㎝程度と残存状態は良くなかった。幅も最大部で1.14mと、後世の掘削のためか全体に細目の状態であった。畦畔中央付近の西側、東西畦畔が取り付く部分の隅では部分的に細い溝状の窪みが認められている。畦畔の盛り土のための掘削跡とみられる。なお、後述するC区では、この1号南北大畦畔に連続する大畦畔が検出されている。

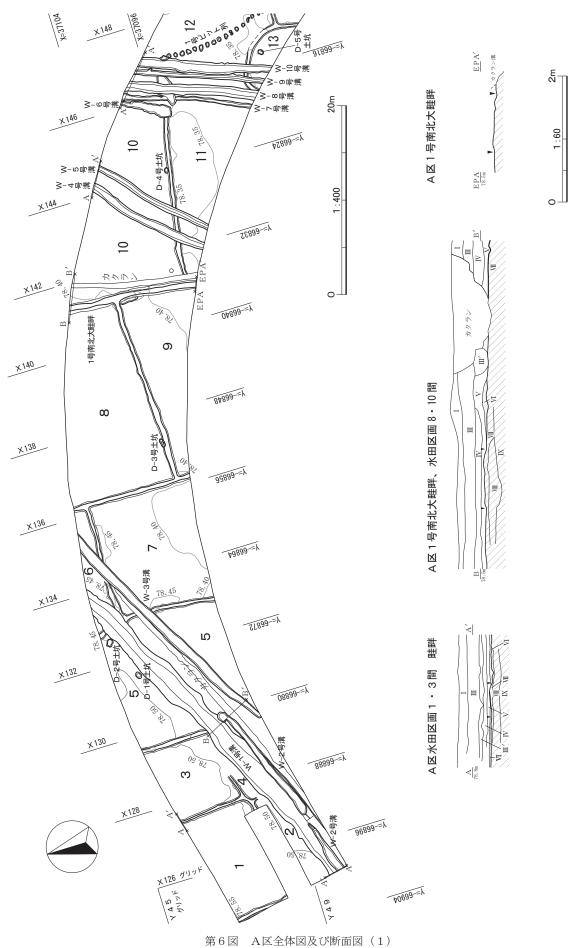
東半部の中央付近では、2号南北大畦畔と1号東西大畦畔が交差する坪境交点が検出された。2号南北大畦畔は中央付近をW-20号溝で切られており、検出長は18.5 mほどで直線的であったが、走向は南北方向からやや西へ振れている。幅は最大部で2.8 mほどと良好に遺存していたが、高さについては最高部でも4 cm ほどであった。畦畔の中央部にはW-19号溝が南北に縦貫しており、As-B層で直接埋没していることから大畦畔に付随して存在したことが確認された。幅は80cm、深さは10cm ほどで、断面形は逆台形である。

これに交差する 1 号東西大畦畔は、交差部から東側は高さ  $10 \, \mathrm{cm}$  ほどまで遺存しており良好であったが、交差部から西側に向かうにつれて高さがなくなっていた。検出長は  $21 \, \mathrm{m}$ で、幅は  $1.1 \sim 1.9 \, \mathrm{m}$ を計り、ほぼ東西方向の走向であった。

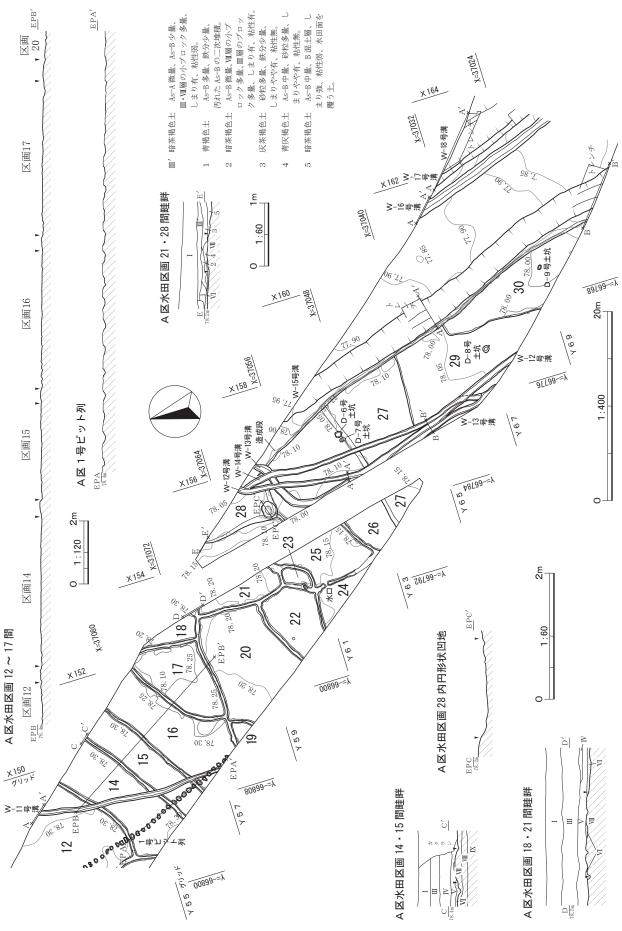
W-19 号溝は、この大畦畔の交差部分では低い堰状の土盛りで分断され、上流側にあたる北側は水溜めのように幅が広げられていた。この東側では東西大畦畔を切って北側から水口Aが続いていた。直線的な走向からみてW-19 号溝からではなく、北側の上部の水田区画から続くものとみられた。区画 34 側の出水口には礫が据えられていた。北西の水田区画 32 からは、W-19 号溝の堰状部分の直下に向けて水口Bが接続されている状況が認められた。水田側には礫が据えられていた。さらにこの部分の反対側には、東の区画 34 から連続する水口Cが続いていた。水口の底面は、水田面や溝の底面からは 4cm ほど高い状況であった。

畦畔の盛り土は、他の小畦畔も含めすべて水田の床土と同じⅦ層の黒色粘質土で形成されていた。

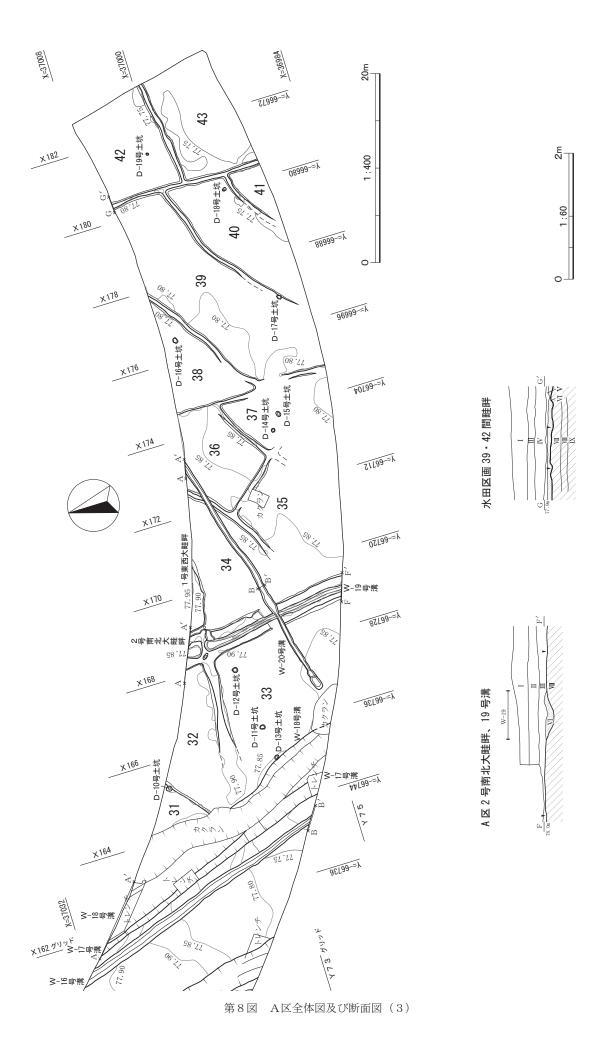
区画: 43 区画が確認されたが、前述のようにすでにAs-B層が削平されていた部分にも水田の存在が予想される。区画の形態は、調査区の形状も相俟って全形を知り得るものは極小の区画 23 のみであった。比較的広い区画であったと想定されるのは調査区西側の $8\cdot9\cdot10\cdot11$  の区画で、調査区内の高所側に位置する。畦畔は東西・南北方向を指向し、長方形の整った広い区画であるとみられる。これに対し、調査区中央付近の区画  $12\cdot13$  から南東側については、非常に不整形な区画が連続していた。 $14\sim16$  の区画は、東西の畦畔が並行に斜行しており、同様の形態は調査区の東端部付近の  $36\sim41$  の区画にも認められた。最も変則的な区画は 17 から 26 付近で、X

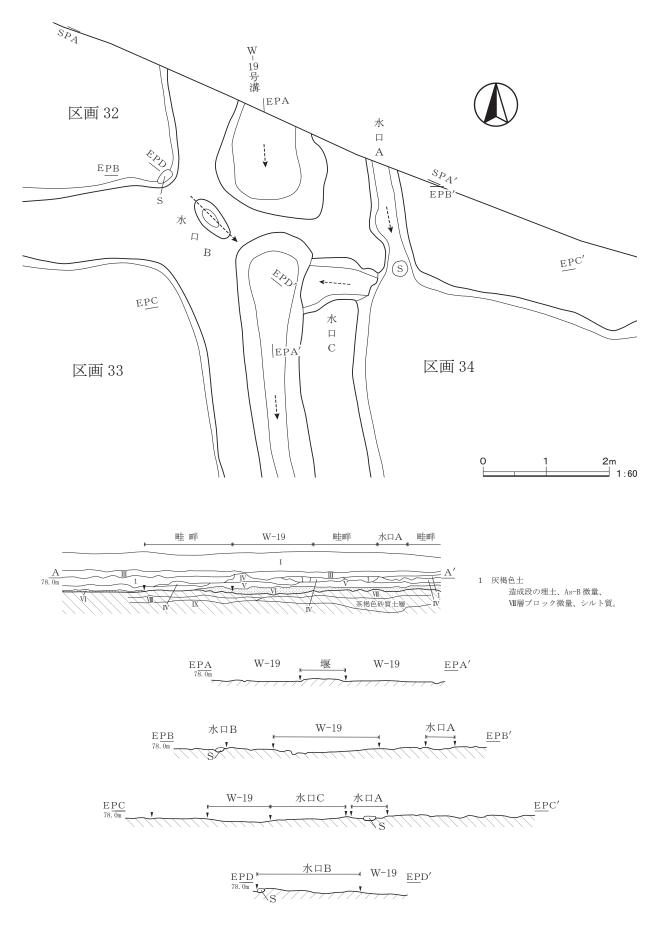


A区全体図及び断面図(1)



第7図 A区全体図及び断面図(2)





第9図 A区2号南北·1号東西大畦畔交差部

字状の畦畔や三角形状の区画などが連続していた。このうち区画 23 は最小の区画で、崩れた菱形状の形態で面積も 3.6 ㎡ほどの極小区画という特異なものであった。

その他、区画 26 の水田面では鋤状の道具による耕起痕が整然と並んだ状況で検出された。

**水口**: 2号南北大畦畔と1号東西大畦畔の交差部で検出された以外は、区画 24・25 間の1カ所で検出されたのみであった。25 から 24 への配水である。

### 2 溝 跡

W-1号溝跡 (第6・10図、PL.7)

位置:調査区西端部で検出された。 **重複**: W - 2 号溝に切られ、B下水田を切っている。 **規模・形態**: 走向は北東から南西で、長さ 38 mほどが検出された。上幅は  $1.2 \sim 2.6$  mと幅があり、深さは  $10 \sim 15$ cm ほどと浅い。断面形は皿状で、底面は細かな凹凸が顕著であった。 **埋没状態**: 埋土にB軽石を多量に含み、非常に硬く締まっていた。 **時期**: 埋土の状況から中世とみられる。

### W-2号溝跡 (第6·10図、PL.7)

位置:調査区西端部で、W-1号溝と平行して検出された。 重複: B下水田、W-1号溝を切っている。 規模・形態: 北東から南西方向の走向で、両端は調査区外へ続く。22 mほどの長さにわたり検出された。上幅 55 ~90cm、深さは西端部の土層断面で 30cmほどで、断面形は逆台形を呈する。底面は耕具痕とみられる凹凸が目立った。 東端の部分は径約 1 mの円形状に広がっていた。 埋没状態: 埋土は B軽石に VII 層の大ブロックが多量に混入しており、自然埋没ではなく人為的に埋め戻されているとみられた。 B軽石を集積して廃棄したものか。 遺物: 混入品とみられる土師器の小片が少量出土。 時期: A s - Bの降下後間もない時期と考えられ、平安末から中世とみられる。

### W-3号溝跡 (第6・10図、PL.7)

位置:調査区西端部で、W-1号・2号溝と並行して検出された。 **重複**: B下水田を切っている。 **規模・形態**: 北東から南西方向に27 mの長さが検出された。東端側は調査区外へ続いている。上幅50 $cm \sim 1.2 m$ 、深さ  $20 \sim 30 cm$ ほどを計り、断面形は逆台形を呈する。底面には凹凸が目立った。 **埋没状態**: B軽石中にVIII層のブロックが多量に入り、W-2号溝と同様の埋土の状況であった。 やはりB軽石の廃棄溝とみられる。 時期: 平安末 から中世とみられる。

### W-4号溝跡 (第6·10図、PL.8)

位置:調査区西半の中央付近で、W-5号溝と平行して検出された。 **重複**: B下水田を切っている。 **規模・形態**: 北東から南西方向へやや東に湾曲しながら走る。両端とも調査区外へ続いている。長さ13 mが検出され、規模は上幅90cm前後、最深部で20cmであった。断面形は、皿状である。 **埋没状態**: 埋土の上部にはB軽石を多く含み、中位には流砂層が認められた。また底面には鉄分の沈着も顕著であったことから水路跡と考えられる。 **時期**: 埋土の状況から中世とみられる。

### W-5号溝跡 (第6・10図、PL.8)

位置:調査区西半の中央付近で、W-4号溝の東側に平行して検出された。 **重複**: B下水田を切っている。 規模・形態:北東から南西方向へ、13 mの長さが検出された。両端部は調査区外へ続く。上幅は70cm前後、深 さは30cmほどで、断面形はU字状である。 **埋没状態**: 埋土中にはB軽石を多量に含んでいた。 時期: As

#### A 区 W-1~3号滞



### W-1号溝(A-A')

1 黒褐色土 As-B多量、しまり強く粘性無。As-B二次堆積土層。

#### W-2号溝 (A-A')

- 2 暗青褐色土 As-B多量、Ⅷ層のブロック多量に含む。しまり・粘性弱。
- 3 青褐色土 As-B多量、Ⅷ層のブロック中量含む。しまり・粘性弱。



#### W-1号溝 (B-B')

1 黒褐色土 As-B多量、しまり強く粘性無。As-B二次堆積土層。

#### W-2号溝 (B-B')

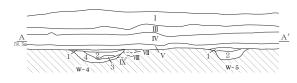
1 暗青褐色土 As-B多量、Ⅷ層のブロック多量に含む。しまり・粘性弱。

FA 軽石と鉄分を微量に含む。

### W-3号溝 (B-B')

- 1 暗茶褐色土 As-B多量。FA粒微量。VII層のブロックを含む。しまり・粘性弱。
- 2 灰褐色粘質土 As-B少量。Ⅷ層のブロック土を含む。しまり弱、粘性やや弱。

#### A区W-4、W-5号溝



#### W-4号溝

1 黒褐色土 As-B多量、FA粒微量、鉄分少量、しまり有、粘性弱。 2 褐色土 As-B中量、FA粒微量、VII層の小ブロック多量。

しまりやや有、粘性やや有。

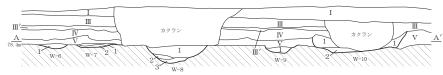
3 灰褐色砂層 As-B微量、しまり弱、粘性無、流砂層。

4 褐色土 As-B少量、FA粒微量、鉄分少量、しまりやや有、粘性強。

#### W-5号溝

1 暗茶褐色土 As-B多量、鉄分中量、しまりやや有、粘性無。 2 灰暗褐色土 As-B多量。FA粒微量、鉄分少量、VII層ブロック少量含む。

### A区W-6~10号溝



#### W-6号溝

1 暗褐色土 As-B多量、VII層・VII層のブロ ック多量。しまり・粘性無。

### W-7号溝

1 茶褐色土 As-B多量、しまり・粘性無。

2 灰褐色土 As-B多量、VII層・VIII層のブロ

ック多量。

### W-8号溝

1 黒褐色土 As-B中量、FA粒微量、VII層のブロック少量、鉄分少量含む。

しまり強、粘性弱。

2 青褐色砂層 As-B少量、VII層ブロック微量。しまり・粘性無。

3 暗灰褐色砂層 As-B中量、VII層ブロック少量。しまり・粘性無。

### W-9号溝

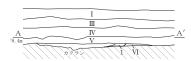
1 As-B層 底面に小豆色のパミス。

### W-10 号潇

As-B中量、砂粒中量、鉄分少量。しまり強、粘性無。 1 暗茶褐色十

2 褐色土 As-B中量、砂粒少量、鉄分微量。しまり強、粘性無。

### A区W-11 号滍



暗茶褐色土 As-B多量、VII層ブロック多量。 カクラン 黒褐色土 As-B多量、VII層ブロック多量。

### A区W-12、13、14号溝





### W-12 号溝

1 灰茶褐色土 As-B多量、WI層の小ブロック中量。しまり・粘性無。 2 暗灰褐色土 As-B中量、VII層の大ブロック多量。 しまり無、粘性弱。

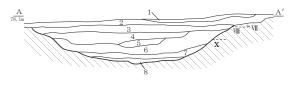
### W-13 号潇

1 暗青褐色土 As-B多量、Ⅷ層・Ⅷ層の大ブロック多量。しまりやや有、粘性無。

### W-14 号潇

1 暗茶褐色土 VII層・VII層の大ブロックの間にAs-Bが中量混じる。しまり無、粘性弱。

### A区W-15号溝



### 2m 1:60

### 造成段埋土

1 茶褐色土 鉄分多量。しまり無、粘性無。シルト層。 2 明褐色土 As-B微量、砂粒中量。しまり有、粘性やや有。

### W-15 号潇

3 暗茶褐色土 As-B少量、砂粒中量、鉄分微量。Ⅱ層の粒子を多く含む。

しまり・粘性やや有。

4 暗褐色土 As-B微量、砂粒中量、鉄分少量。VⅢ層の大ブロックを多く

含む。 しまり・粘性やや有。

5 暗茶褐色土 As-B少量、砂粒中量。VⅢ層の大ブロックを多量に含む。

しまりやや有、粘性有。

6 黒褐色土 As-B少量、砂粒中量、鉄分少量。Ⅷ層の小ブロックを多く

しまり・粘性やや有。

青灰褐色土 砂粒多量。しまりやや有、粘性無。 しまりやや有、粘性無。流砂層。

第10図 A区溝跡(1)

- Bの降下後間もない時期と考えられ、平安末から中世とみられる。

### W-6号溝跡 (第6・10図、PL.8)

位置:調査区西半の中央付近で、W-7~10号溝と平行して検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態:北北東から南南西方向に走る。北側は調査区外へと続き、検出長は5.5mである。上幅50cm~1.5m、深さは10cmほどで、断面形は皿状である。底面は起伏が目立った。 埋没状態: B軽石中にVII層・VII層のブロックを多量に含む埋土で、自然埋没とは考えられなかった。 B軽石の廃棄溝とみられる。 時期:埋土の状況から、平安末から中世にかけてとみられる。

### W-7号溝跡 (第6・10図、PL.8)

位置:調査区西半の中央付近で、W-6・8~10号溝と平行して検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 **規模・形態**: 北北東から南南西方向にやや屈曲しながら走り、長さ13.5 mが検出された。両端は調査区外へ続いている。上幅は35~80cm、深さ10cm弱ほどで、断面形は皿状である。底面は凹凸が目立った。 **埋没状態**: W-6号溝と同様の埋土で、B軽石の廃棄溝とみられる。 **時期**:埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### W-8号溝跡 (第6·10 図、PL.8)

位置:調査区西半の中央付近で、W-6・7・9・10 号溝と平行して検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 規模・形態: 北北東から南南西方向に、長さ13.5 mが検出された。両端は調査区外へ続いている。上幅1.1 m、深さ20cm 前後を計り、U字状の断面形である。 **埋没状態**: 埋土中にB軽石をやや多く含んでおり、埋土下部には流砂層の堆積が見られた。水路跡。 遺物:混入とみられる土師器小片が数点出土。 時期:埋土の状況から、中世とみられる。

### W-9号溝跡 (第6・10図、PL.8)

位置:調査区西半の中央付近で、W-6~8、10号溝と平行して検出された。 **重複**:なし。 **規模・形態**: 北北東から南南西方向へ直線的に、長さ13.5 mまで検出された。両端は調査区外へ続いている。上幅 50cm、深さ10cm 前後で、断面形はU字状である。 **埋没状態**: As-Bの降下で直接埋没しており、底面には水田面と同様に小豆色の灰層が認められた。 **遺物**:混入とみられる土師器の小片が出土。 時期:平安末。

### W-10号溝跡 (第6·10図、PL.8)

位置:調査区西半の中央付近で、W-6~9号溝と平行して検出された。 **重複**: B下水田面、1号ピット列を切っている。 規模・形態: 北北東から南南西方向にやや屈曲しながら走り、長さ14 mが検出された。両端は調査区外へ続いている。北端部の土層断面では、上幅1.5 m、深さ30cm以上の規模で、断面形は箱形を呈する。**埋没状態**: 埋土中にはB軽石を中量含むほか砂粒も中量含み、水路跡とみられる。 時期: 埋土の状況から中世とみられる。

### W-11号溝跡 (第7・10図、PL.8)

位置:調査区西半部の東側で検出された。 重複: B下水田面、1号ピット列を切っている。 規模・形態: 北から南方向の走向で、東へやや湾曲している。約 20 mの長さで検出され、両端は調査区外へ続いている。上幅 60cm、最深部で10cm ほどの規模で、断面形は皿状である。 埋没状態: 埋土はB軽石・Ⅷ層のブロックを多量に含む。 時期: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

#### W-12号溝跡 (第7·10図、PL.8)

位置:調査区中央付近で検出された。 重複: B下水田・W-13 号溝を切り、W-14 号溝に切られている。 規模・形態: 北から南方向に走り、途中でやや東方向に走向を変えている。両端は調査区外へ続いており、検出長は44 mであった。直線的な形態で、上幅50cm前後、深さ15cmほど、断面形は逆台形を呈する。底面には凹凸が目立つ。 埋没状態: B軽石を多量に含み、Ⅷ層の大ブロックも多量に含む。掘削後まもなく埋め戻されたような状況である。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

#### W-13号溝跡 (第7·10図、PL.8)

位置:調査区中央付近で検出された。 重複: B下水田を切り、W-12 号・14 号溝に切られている。 規模・形態: 北東から南西方向に走り、途中で北西から南東方向へ屈曲している。検出長は 31 mほどで、両端は調査区外へ続いている。上幅は 50 ~ 90cm、深さは 10cm 弱ほどで、断面形は逆台形で、底面は凹凸が目立つ。 埋没状態: 埋土中には多量のB軽石とVII層・VIII層の大ブロックを含み、人為的に埋め戻された状況である。 時期: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### W-14号溝跡 (第7·10図、PL.8)

位置:調査区中央付近で検出された。 重複: B下水田面とW-12号・14号溝を切っている。 規模・形態: W-12号溝との重複部分から始まり、北から南に走るが、屈曲が目立つ。南端は調査区外へ延びており、検出長は直線で32mである。上幅約50cm、深さは10cm前後で、断面形は逆台形である。底面は凹凸が目立つ。 埋没状態:埋土は、Ⅷ層・Ⅷ層のブロック中にB軽石を中量含み、やはり掘削後まもなく人為的に埋め戻されたような状況である。 時期:埋土の状況から、中世とみられる。

### W-15号溝跡 (第7・10・11 図、PL. 8・9)

位置:調査区中央から東付近で検出された。 重複:後世の雛壇状の造成で上部を削平されている。 規模・形態: 北西から南東の走向で、約43 mの長さが検出された。両端は調査区外へ延びている。上幅は2.5~3 mほどで、深さは部分的な検出のみであったが60cmほどであった。断面形は幅広のU字状を呈する。走向や規模・形態からみてB区W-2号溝に連続する可能性が高い。 埋没状態:最上層に微量のA軽石を含み、中位以下には流砂層の堆積が顕著であり水路跡と考えられた。 遺物:土師器小片、灰釉陶器小片などが数点出土。 時期:埋土の状況から近世以後とみられる。

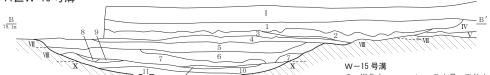
### W-16号溝跡 (第8・11 図、PL.9)

位置:調査区東半部の西側付近で検出された。 **重複**:後世の雛壇状の造成で上部を削平されている。 **規模・形態**:北西から南東へ直線的に走る。約30mが検出され、両端部は調査区外へ延びている。上幅は60 cm~1.2 m、深さは5~25cmほどで、南に向かって縮小していく。断面形は皿状で、底面には細かな凹凸が目立つ。走向や規模・形態からみてB区W-5号溝に連続する可能性が高い。 **埋没状態**:埋土中にB軽石を少量含む。最下層には流砂層の堆積がみられ、水路跡とみられる。 **時期**:埋土の状況から近世とみられる。

### W-17号溝跡 (第8・11 図、PL.9)

位置:調査区東半部の西側付近で、W-16 号溝と平行して検出された。 **重複**:W-18 号溝に切られている。 **規模・形態**:北西から南東方向に直線的に続き、約29 mの長さで検出された。規模は、W-18 号溝に切られていることや、部分的な掘り下げのみであったために不明な点が多いが、南端部の深さは60cm以上であった。断面形は皿状で

A区W-15号溝



造成段埋土

As-A微量、砂粒少量、鉄分多量。しまり有、粘性やや弱。シルト質。 1 灰黄褐色土

As-B少量。しまり有、粘性無。流砂層。レンズ状に互層に堆積。 2 灰褐色砂層

As-B中量、砂粒中量、鉄分多量。 3 灰茶褐色十

4 明褐色土 砂粒中量、鉄分少量、しまりやや有、粘性やや有。

As-B中量、砂粒中量。VII層の小ブロックわずかに含む。 5 褐色土

しまりやや有、粘性やや有。 As-B微量、砂粒少量。WI層の大ブロック多量に含む。

しまりやや有、粘性強。 7 黒褐色土 As-B微量、砂粒中量。Ⅷ層の大ブロックわずかに含む。

しまりやや有、粘性やや弱。

8 黒色土 しまり有、粘性強。

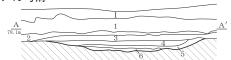
6 暗茶褐色土

9 灰褐色砂層 As-B少量。しまりやや有、粘性無。流砂層。

砂粒多量、As-B少量。しまりやや有、粘性無。 10 青灰褐色土

11 青褐色砂層 しまりやや有、粘性無。

A区W-16号溝



A-A'

#### 造成段埋土

As-B微量、砂粒中量。しまり有、粘性やや弱。シルト質。 1 灰苗褐色十

2 灰茶褐色砂層 鉄分少量。しまりやや弱、粘性無。流砂層。

3 灰褐色土 鉄分少量。しまり・粘性やや有。

W-16 号溝

4 黒褐色土 As-B中量、砂粒少量、鉄分微量、しまりやや有、粘性やや弱。

As-B微量、砂粒中量。しまりやや有、粘性やや有。 5 明褐色土

As-B少量、鉄分微量。しまりやや弱、粘性無。流砂層。 6 黒褐色砂層

TV

B-B'

#### 造成段埋土

鉄分中量、しまりやや弱 粘性有 1 灰茶褐色十 砂粒少量、鉄分多量。しまり・粘性やや有。 2 茶褐色十

3 褐色砂層 しまりやや弱、粘性有。

As-A 少量、As-B微量、砂粒微量、鉄分少量。しまり・粘性やや有。 4 暗灰褐色土

カクラン

As-B微量、砂粒少量。しまり・粘性やや弱。 5 褐色土

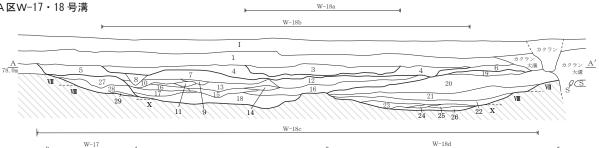
しまり・粘性やや弱。 6 暗褐色土

W-16 号溝

8 黒褐色土 As-B微量、鉄分少量。しまりやや有、粘性やや弱。

しまりやや有、粘性無。流砂層。 9 黒褐色砂層

A区W-17·18号溝



造成段埋土

As-B微量、砂粒中量、鉄分中量。しまり有、粘性やや弱。 1 灰黄褐色土

2 灰褐色土 鉄分少量。しまり・粘性やや有。

W-18 a 号溝

3 灰褐色砂層 鉄分少量。しまり・粘性無。流砂。

W-18b号溝

4 灰茶褐色土 As-B微量、砂粒少量、鉄分少量。しまり有、粘性やや弱。

W-18 c 号溝

5 明褐色十 砂粒微量、鉄分少量。しまり・粘性やや有。

砂粒微量、鉄分少量。As-B微量。しまりやや有、粘性弱。 6 明茶褐色十

7 暗灰褐色土 砂粒少量、鉄分少量。しまり・粘性やや有。 8 灰褐色土 鉄分微量。As-B微量。しまり・粘性やや弱、

9 明灰褐色十 砂粒微量、鉄分少量。しまりやや有、粘性やや弱。

10 灰褐色土 As-B微量、砂粒中量、鉄分微量。しまりやや有、粘性やや弱。

11 灰茶褐色十 砂粒少量、鉄分少量。しまりやや弱、粘性無。シルト質。

12 暗灰褐色砂層 鉄分微量。しまりやや弱、粘性無。流砂。

13 灰褐色土 砂粒少量、鉄分少量。しまり・粘性やや有り。

14 茶褐色砂層 鉄分中量。しまりやや有、粘性無。流砂。 15 黒褐色砂層 鉄分微量。しまりやや有、粘性無。流砂。

16 褐色砂礫層 やや大粒の砂礫、As-B少量含む。しまりやや有、粘性無。流砂。

17 灰褐色砂層 細砂粒のみ。しまりやや有、粘性無。流砂。

18 青褐色砂層 As-B少量。しまりやや有、粘性無。流砂

### W-18d号溝

19 灰褐色土 As-B微量、砂粒中量。しまりやや有、粘性やや弱。

20 明灰褐色土 砂粒微量。しまり・粘性やや有。

21 明灰茶褐色土 As-B少量、砂粒少量、鉄分少量。しまりやや有、粘性やや弱。

灰褐色土 砂粒微量。しまり・粘性やや有。

23 暗褐色砂層 しまりやや有、粘性無。流砂。

24 灰茶褐色砂層 しまりやや有、粘性無。流砂。

25 暗褐色砂層 鉄分中量。しまりやや有、粘性無。流砂。

26 青褐色砂層 しまりやや有、粘性無。流砂。

### W-17 号溝

27 黒褐色土 As-B微量、砂粒少量、鉄分微量、VII層のブロック多量に含む。

しまり・粘性やや有。

As-B微量、砂粒少量。しまりやや有、粘性やや弱。 28 褐色土

29 黒褐色土 しまりやや有、粘性無。流砂。

1:60

### A区W-20号溝



1 黒褐色十 As-Bを多く含む。Ⅷ層由来の茶褐色粘質土を多く含む。

しまり有、粘性弱。

As-Bの二次堆積。鉄分少量、VII層、VIII層のブロックを含む。 2 暗茶褐色土 しまり強く、粘性無。

第11図 A区溝跡(2)

あったとみられる。 **埋没状態**: B軽石を微量含む埋土で、最下層には流砂層の堆積が認められ、水路跡と考えられた。 **遺物**: 内耳堝とみられる小破片のほか、陶器片、混入とみられる土師器片などが少量、さらに石鏃1点が出土。 時期: 埋土の状況から中世から近世とみられる。

### W-18号溝跡 (第8·11 図、PL.9)

位置:調査区東半部の西側付近で検出された。 重複: W-17 号溝を切っている。また 18 a 号溝から d 号溝に及ぶ少なくとも 4 回の掘り直しが行われているようである。 規模・形態: W-17 号溝に沿って北西から南東方向に直線的に続き、31 mの長さが検出された。部分的な掘り下げのみのため規模は不明な点が多いが、深さは c 号、d 号溝が 65cm ほどである。断面形は幅広のU字状を呈する。走向や規模・形態からみてB区W-6号溝に連続する可能性が高い。 埋没状態: 埋土は a 号から d 号溝まで流砂層やシルト層が顕著で、大規模な水路跡であったとみられる。 時期: 埋土の状況から、近世から近代頃とみられる。

### W-19号溝跡 (第8・9図、PL.6・7)

位置:調査区東半部の中央付近で検出された。2号南北大畦畔に伴う水路跡。 **重複**:W-20号溝に切られている。 規模・形態:南北方向にやや屈曲気味に走り、18mほどの長さが検出された。1号東西大畦畔との交差部では低い堰状の土堤が設けられ、その両側は水溜状に広がっている。上幅が80cm、深さは10cmほどで、断面形は逆台形である。 **埋没状態**:As-Bの降下によって埋没している。 **時期**:平安末。

### W-20号溝跡 (第8·11 図、PL.9)

位置:調査区東半部の中央付近で検出された。 **重複**: 2 号南北大畦畔やB下水田面を切っている。 **規模・形態**: 東から西方向にほぼ直線的に走る。幅 50cm 前後、深さ 10cm ほどの規模で、28 mの長さが検出された。東端部 は調査区外へと続くが、西端部は長さ 1.6 m、幅 85cm の水溜状の掘り込みとなって終わっている。断面形はU 字状を呈し、底面は凹凸が目立つ。 **埋没状態**: 埋土中にB軽石を多量に含む。 時期: 埋土の状況から、中世 とみられる。

### 3 土 坑

### **D-1号土坑** (第12図、PL.9)

位置:調査区西半部の西側付近で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: やや不整な円形で、長径 78cm、深さは 24cm を計る。断面形は逆台形である。 埋没状態: B軽石を多量に含む埋土で、A s-Bの降下後あまり時間を経ない段階での掘削とみられる。 時期:埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### **D-2号土坑** (第12図、PL.9)

位置:調査区西半部の西側付近で検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 **規模・形態**: 平面形は円形を基調としているとみられ、長径で85cm、深さは8cmほどである。断面形は皿状を呈し、底面は凹凸が目立つ。 **埋没状態**: 埋土はB軽石を多量に含み、D - 1 号土坑と同様である。 **時期**: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### D-3号土坑 (第12図、PL.10)

位置:調査区西半部の中央付近で検出された。 **重複**: B下水田の畦畔を切っている。 **規模・形態**: 東西に長い 長円形で、長径は94cm、深さ14cmを計る。断面形は皿状で、底面は凹凸が目立つ。 **埋没状態**: B軽石を多量 に含む埋土で、D-1号土坑と同様である。 時期:埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### **D-4号土坑** (第12図、PL.10)

位置:調査区西半部の中央付近で検出された。 **重複**: B下水田の畦畔を切っている。 **規模・形態**: やや東西に長い楕円形で、長径は60cm、深さ14cmを計る。断面形は皿状を呈する。 **埋没状態**: B軽石を多量に含む埋土で、D-1号土坑と同様にAs-Bの降下後あまり間のない時期の掘削とみられる。 時期: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### D-5号土坑 (第12図、PL.10)

位置:調査区西半部の中央付近で検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 **規模・形態**: 不整形な長円形状の平面で、南北の長辺が66cm、深さは8cmほどである。断面形は皿状で、底面はやや凹凸が見られた。 **埋没状態**: 埋土はB軽石を微量含む灰褐色の粘質土であった。 **時期**: 埋土の状況から、中世とみられる。

### D-6号土坑 (第12図、PL.10)

位置:調査区の中央で、D-7号土坑と近接して検出された。 **重複**: B下水田の畦畔を切っている。 **規模・形態**: 不整な長円形状で、南北の長辺で 64cm を計る。深さは 10cm ほどで、箱形の断面形である。 **埋没状態**: B軽石を多量に含んだ埋土で、下層にはⅦ・Ⅷ層のブロックが多く見られた。 時期: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### D-7号土坑 (第12図、PL.10)

位置:調査区の中央で、D-6号土坑と近接して検出された。 重複:B下水田の畦畔を切っている。 規模・ 形態:不整形で、長辺部82cm、深さ9cmほどである。断面形は皿状で、底面はやや凹凸が見られた。 埋没状態: 埋土はB軽石中にVII・VII層のブロックを含むものであった。 時期:埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### D-8号土坑 (第12図、PL.10)

位置:調査区の中央部で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: やや不整形な楕円形で、 長径 76cm、深さ 16cm ほどを計る。断面形は皿状で、底面は凹凸が目立つ。 埋没状態: 埋土中にはB軽石を多量に含み、Ⅷ層のブロックを中量含んでいた。 時期: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### D-9号土坑 (第12図、PL.10)

位置:調査区の中央部で検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 **規模・形態**: 長円形の平面で、長径 55cm、深さは7cmほどである。断面形は皿状を呈する。 **埋没状態**: B軽石を多量に含む埋土であった。 **時期**: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### D-10号土坑 (第12図、PL.10)

位置:調査区東半部の中央付近で検出された。 重複: B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態: 平面形は不整形で、南北の長辺が 60cm、深さは 17cm ほどである。断面形はU字状に近いが、全体に凹凸が顕著であった。 埋没状態: 埋土は、B軽石を多量に、VII層のブロックを少量含む。 時期: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### A区D-1号土坑

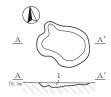
### A区D-2号土坑

### A区D-3号土坑

### A区D-4号土坑











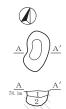
A区D-1~4号土坑 1 灰褐色土層 As-Bを多量に含む。

### A区D-5号土坑



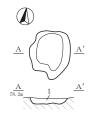
1 灰褐色粘質土 A s-B微 量、Ⅲ層土中 にIV層土を 少し含む。

### A区D-6号土坑



1 灰茶褐色土層 A s-B多量。 二次堆積。 黒褐色土層 A s-B少量、 VI層・VII層の 大ブロックを 含む。

### A区D-7号土坑



1 灰茶褐色土層 As-B多量、 VII層・VII層の小 ブロック中量。

### A区D-8号土坑



1 灰茶褐色土 2 灰褐色土

As-B多量、鉄分多く、VII層の小ブロ ックを少し含む。しまり有、粘性無。 As-B多量、VII層の小プロックを中量 含む。しまりやや有、粘性無。 As-B多量。

3 灰褐色土

4 黒褐色土

As-B中量、VII層のブロック多量。 しまり有、粘性やや有。

### A区D-9号土坑





1 灰茶褐色土 As-B多量、鉄分中量。 しまり有、粘性弱。

As-B少量。しまり・粘性有。 2 暗茶褐色土

### A区D-10号土坑





A区D-11号土坑





A区 12 号土坑





A区14号土坑





A区D-13号土坑





1 灰褐色土

--As-B多量、VII層のブロック 少量含む。 しまりやや有、粘性弱。

D-11・12・14 号土坑

1 黒褐色土 As-Bを多量に含む。VII層、VIII層のブロックを 多く含む。しまり・粘性やや有。

1 灰褐色土

As-B多量、二次堆積。

### A区D-15号土坑





A区D-16 号土坑



A区D-17号土坑



A区D-18号土坑



A区D-19号土坑



1 黒褐色土

2 里褐色十

A s-B多量に含む。VII層の 小ブロック少量。 しまりやや有、粘性無。

A s - B 多く含む。VII層のブ ロック多量に含む。 しまり・粘性やや有。

D-16 ~ 18 号土坑

As-B混土層、しまり強、粘性弱。 1 黒褐色土 VⅢ層のブロックを少量含む。

1 灰褐色土

As-B二次堆積。



第12図 A区土坑

### D-11号土坑 (第12図、PL.10)

位置:調査区東半部の中央付近で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 不整な円形状で、 長径 57cm、深さは8 cm ほどである。皿状の断面形で、全体に凹凸が目立つ。 埋没状態:埋土中にはB軽石とⅧ・ Ⅷ層のブロックを多く含む。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

### D-12号土坑 (第12図、PL.11)

位置:調査区東半部の中央付近で検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 **規模・形態**: 不整形な平面形で、長辺が 57cm、深さは 10cm ほどを計る。皿状の断面形で、凹凸が顕著である。 **埋没状態**: 埋土中には B軽石とⅧ・Ⅷ層のブロックを多く含む。 **時期**: 埋土の状況から、中世とみられる。

### D-13号土坑 (第12図、PL.11)

位置:調査区東半部の中央付近で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 長円形の平面 形で、長径 52cm、深さは11cm ほどを計る。U字状の断面形を呈する。 埋没状態: 埋土中には多量のB軽石が 見られた。 時期: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### D-14号土坑 (第12図、PL.11)

位置:調査区の東端付近で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 円形で、径 42cm、深さ 14cm を計る。断面形はU字状を呈する。 埋没状態: 埋土中にはB軽石とⅦ・Ⅷ層のブロックを多く含んでいた。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

### **D-15号土坑** (第12図、PL.11)

位置:調査区の東端付近で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 長円形の平面で、長径 60cm を計る。深さは8cm ほどで、U字状の断面形である。 埋没状態: B軽石とⅧ層のブロックを多く含む埋土であった。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

### **D-16号土坑** (第12図、PL.11)

位置:調査区の東端付近で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 平面形は不整形で、 長辺部が 62cm、深さは8cm ほどを計る。断面形は皿状で、全体に凹凸が顕著であった。 埋没状態: B軽石を 多く含み、Ⅷ層のブロックを少量含む埋土であった。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

### **D-17号土坑** (第 12 図、 P L . 11)

位置:調査区の東端付近で検出された。 **重複**: B下水田の畦畔を切っている。 **規模・形態**: 不整形な平面形で、長辺部 53cm を計る。深さは 16cm ほどで、断面箱形を呈し、全体に凹凸が顕著であった。 **埋没状態**: 埋土は、B軽石を多く含み、Ⅷ層のブロックを少量含んでいた。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

### D-18号土坑 (第12図、PL.11)

位置:調査区の東端部で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 不整形な平面形で、長辺 42cm、深さ 10cm を計る。断面形はU字状であるが、底面は凹凸がある。 埋没状態: B軽石を多く含み、Ⅶ 層のブロックを少量含む埋土であった。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

#### **D-19号土坑** (第 12 図、P L . 11)

位置:調査区の東端部で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: やや長円形で、長径 30cm、深さ11cmを計る。断面形は箱形である。 埋没状態: 多量のB軽石によって埋没していた。 時期: 埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

### 4 その他

1号ピット列 (第6・7図、PL.4)

位置:調査区東半部の東側で検出された。 重複: B下水田面や畦畔を切り、W-10号、11号溝に切られている。 規模・形態: 39 基のピットが、直線距離で 26 mの長さで、北から南南東方向に緩く湾曲しながら列状に連続していた。ピット間の距離は 20~40 cm 前後で、30 cm ほどが多い。個々のピットは不整形で、東西に長いものが多く、長辺部で 40~60 cm を計る。深さは深いものでも 10 cm ほどであり、内面には鋤状の耕作具痕が残るものが多い。 埋没状態: 底面には小豆色の火山灰が付着し、As-Bの降下で直接埋没している。 時期: 平安末。

### 2 B 区

As-B層(VI層)が残っていたのは、W-1号溝の西までと、X157、158 グリッド付近、さらにX179 グリッドから調査区東端部までの3ヵ所のみであった。これらの地点ではAs-B下の水田跡が検出された。そのほかの地点ではVII層の面で調査を行っているが、調査区中央から東寄りのW-2号から6号溝の周辺はVII層上面も後世の削平を受けているようであった。

### 1 As-B層下水田跡 (第13·14 図、PL.12·13)

位置: X 157、158 グリッドと調査区の東端部で検出された。 **重複**: なし。 **地形**: すでにVII層上面まで削平されている地点が多かったが、原地形はB区の中央方向から南方に向かって緩やかな傾斜になっていたものと考えられる。 **畦畔**: X 157 グリッドでは 1 ヵ所のみ南北方向の畦畔が検出された。長さ 1.4 m、幅  $70 \sim 80$  cm で、高さは 2 cm 程度であった。東端部では南北方向の畦畔 2 条とこの間を区画する東西方向の畦畔 2 条が検出された。東端部の南北畦畔は 1 m以上の幅があるとみられ、高さも 5 cm と高い。東西畦畔は北東から南西に斜行しており、畦畔自体の屈曲も大きかった。幅は 70 cm 前後であった。区画 5 と 6 の間の東西畦畔では、南北畦畔に近い場所で水口が認められた。5 から 6 への配水であった。なお、A区で検出された 2 号南北大畦畔の延長部については、後世のW -2 号溝付近の位置に相当するとみられるが、前述のようにVII層上面もすでに削平されていて確認されなかった。 **区画**: 東端部では区画 3 から 6 までの 4 区画が検出された。区画  $4 \sim 6$  は東西畦畔が斜行していることから、A区の東端部付近の区画  $38 \sim 41$  のような変則的な区画であったと考えられる。

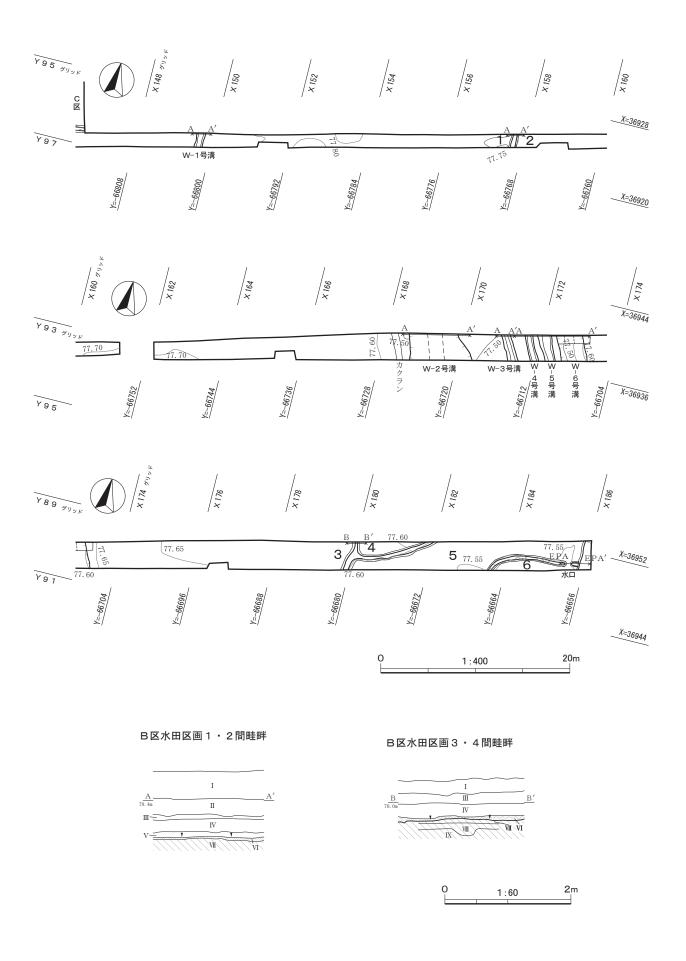
### 2 溝 跡

W-1号溝跡 (第13・15図、PL.13)

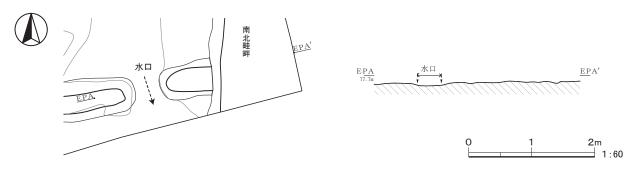
位置:調査区西辺で検出された。 重複:なし。 規模・形態:南北の走向で、1.6 mの長さが検出された。土層断面でみると上幅は1.7 m、深さは30cmほどに及ぶ。断面形は二段の皿状を呈し、底面には細かな凹凸が目立つ。 埋没状態: B軽石を少し含み、砂粒をやや多く含む埋土であった。 時期:埋土の状況から、中世から近世とみられる。

W-2号溝跡 (第13・15 図、PL.13)

位置:調査区中央からやや東で検出された。 重複:なし。 規模・形態:北西から南東の走向で、長さ2.8 m



第13図 B区全体図及び断面図



第14図 B区水田跡水口

が確認された。上幅 5 mから 6.7 mと南に向けて幅が広くなる。掘り下げは部分的であったが、深さは北端で 60cm ほどであった。皿状の断面形を呈する。 埋没状態:多量の流砂層が互層に認められ水路跡と考えられる。 B軽石は微量含まれるのみであった。走向や規模・形態からみてA区W-15 号溝の連続部分の可能性が高い。 遺物:混入品の土師器小片が少量出土。 時期:埋土の状況から近世頃とみられる。

### W-3号溝跡 (第13·15 図、PL.13)

位置:調査区中央から東寄りの部分で検出された。 **重複**:なし。 **規模・形態**:北西から南東方向に走る。検 出長は2.8 mで、規模は上幅1.3 m、深さ30cmほどを計る。断面形は二段の逆台形状である。 **埋没状態**:最 下層に流砂層が堆積し、B軽石を少量含んでいる。 **時期**:埋土の状況から、中世から近世とみられる。

### W-4号溝跡 (第13・15図、PL.13)

位置:調査区中央から東寄りの部分で検出された。 **重複**:なし。 **規模・形態**:北西から南東の走向で、2.8 mの長さが検出された。上幅80cm、深さは25cmほどの規模である。断面形はU字状を呈する。 **埋没状態**:埋土 は砂粒を多く含み、B軽石は微量であった。 時期:埋土の状況から、近世とみられる。

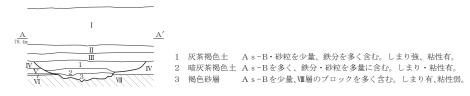
### W-5号溝跡 (第13・15図、PL.13)

位置:調査区中央から東寄りの部分で検出された。 **重複**:なし。 規模・形態:北西から南東方向に走る。検出長は2.8 mで、上幅は1.4~1 mと南に向かって狭く、深さは30cmほどであった。断面形は皿状を呈し、底面には多数の細かい凹凸が見られた。走向や規模・形態からみてA区W-16 号溝と連続する可能性が高い。 **埋没状態**:流砂層や多量の砂粒を含む埋土で、B軽石は微量認められた。水路跡である。 時期:埋土の状況から、近世とみられる。

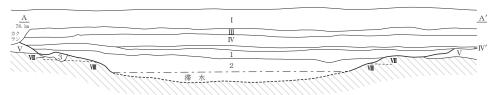
### W-6号溝跡 (第13・15図、PL.13)

位置:調査区中央から東寄りの部分で検出された。 **重複**:なし。 **規模・形態**:北西から南東の走向で、掘り下げは一部分のみであったが確認長は2.8 mである。規模は、上端が2.7 m、深さは土層断面で90cmほどで、断面は幅広のU字状であった。走向や規模・形態からみてA区W-18 号溝の連続部分の可能性が高い。 **埋没状態**:埋土は多数の流砂層の互層が主で、水路跡である。 **遺物**:混入の土師器・陶器小片数点のほか、黒曜石の石核が1点出土。 **時期**:埋土の状況から近世から近代とみられる。

### B区W-1号溝



#### B区W-2号溝

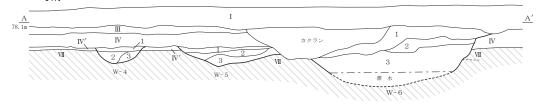


- 1 明褐色土 As-B微量、砂粒多く含む。しまり・粘性有。
- 2 褐色土 As-B微量、砂粒(流砂層)多量、茶褐色粘質土少量含む。しまり強、粘性弱。
- 3 暗褐色土 As-B微量、砂粒多量、茶褐色粘質土多く含む。しまり有、粘性弱。

### B区W-3号溝



#### B区W-4~6号溝



### W-4号溝

- 1 灰茶褐色土 IV'層にV層褐色土を多く含む。しまり弱、粘性有。
- 2 暗褐色土 砂粒多く、As-B微量。しまり有、粘性弱。
- 3 黒褐色土 WⅢ層のブロックを多量に、砂粒を多く含む。しまり有、粘性強。

#### W-5号溝 1 茶褐色土

- 茶褐色土 砂粒多量、FA 粒・鉄分を多く含む。しまり弱、粘性有。
   青褐色砂層 As-B微量。しまり有。流砂層。
- 3 灰褐色土 砂粒多量、As-B微量。しまり有、粘性弱。

### W-6号溝

- 1 茶褐色砂層 As-B・鉄分微量、砂粒多く含む。しまり有、粘性弱。
- 2 灰褐色砂層 As-B微量。しまり弱、粘性無。流砂層。
- 3 褐色砂層 青褐色砂層と薄い茶褐色粘質土が互層に入る。流砂層。
- IV'層 V層に茶褐色粒を多く含む。



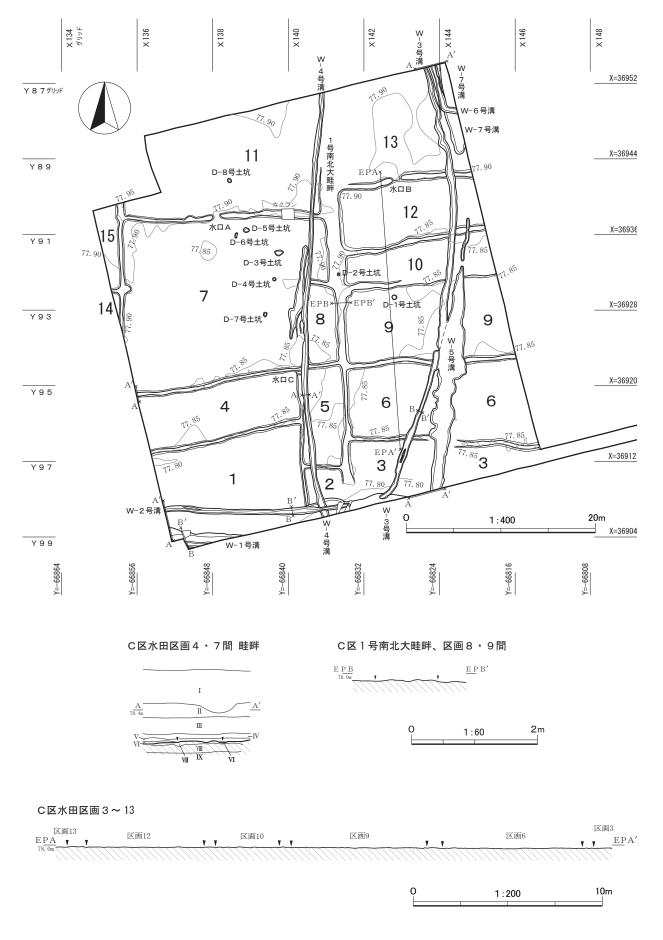
第15図 B区溝跡

### 3 C 区

調査区の全体にAs-B層(VI層)の堆積が認められた。検出された遺構は、水田跡 2D-8 号土坑以外はすべてAs-B降下後の時期であった。

### 1 As-B層下水田跡 (第16図、PL.14・15)

位置:調査区のほぼ全体にかけて検出された。 重複: D - 8号土坑が水田跡と同時期とみられるが、他の遺構はすべて後世のものである。 地形: 水田面のⅧ層上面は南へわずかに傾斜している。調査区の北辺と南辺の標高差は10cmであった。畦畔: 調査区のほぼ中央に1号南北大畦畔が検出された。最大幅は2.4 mほどであるが、高さは最大でも4cm強程度であった。南半部では西側から掘削を受けて60cm程度の幅になっている部分も見られた。小畦畔のうち北東側の3条の東西畦畔については、ほとんど高さがなく幅も一定せず、屈曲気味の不整形な状況であった。畦畔の盛り土は、南北大畦畔の北半は茶色味の強い粘質土であったが、他はすべて水田面と同じⅧ層の土壌であった。



第16図 C区全体図及び断面図

区画:15の区画が検出された。中央の1号南北大畦畔を軸に東西の畦畔が延び、長方形の区画が比較的整然と並んでいた。東西方向の畦畔は間隔が狭く、区画は東西に長い平面形が主である。南北大畦畔南半の西側に連なる小区画は南北方向に長い区画で、大畦畔を掘り込んでいる様子が認められた。後から便宜的に設定された少区画とみられる。面積は小区画の5と8が全形が知られ、5が41.7㎡、8が27.4㎡である。区画7についてもほぼ全体が想定でき、325㎡ほどと今回の調査で検出された全区画の中で最大であった。区画9・10・12の水田面については、他の区画とは異なり表面の凹凸が非常に顕著であった。 水口:区画7と11の間の東西畦畔の中央部(水口A)と、区画12と13の間の東西畦畔(水口B)、区画4と5の間の南北畦畔の北端部(水口C)で検出された。水口AとBは北から南の区画への流れで、Cは区画5から4の方向とみられる。

### 2 溝 跡

### W-1号溝跡 (第16・17図、PL.15)

位置:調査区南西隅で検出された。 重複:土層断面の観察から、a・b・c・d号と4回の掘り直しが認められた。平面的にはc号、d号溝が検出されたのみである。 規模・形態:いずれも東西方の走向である。c号溝は4mほどの検出長で、上幅55cm、深さが42cmほど、断面形はU字状であった。d号溝は検出長7.8mほどであったが、c号溝との重複や調査区の関係から明確な規模は不明である。上幅が1.4m以上で、深さは20cm強であったとみられる。断面は皿状である。 埋没状態:埋土は、c号溝は砂粒や凹層のブロックを少量含んでおり、d号溝はB軽石を少量含み流砂層の堆積から、水路とみられる。 遺物:混入品の土師器の小片が数点出土。 時期:埋土の状況から、近世とみられる。

#### W-2号溝跡 (第16・17図、PL.15)

位置:調査区南辺で検出された。 重複: B下水田面やW - 4号溝を切っている。 規模・形態: 東西方向に走り、西端は調査区外へ続く。19.2 mほどの長さが検出された。規模は西端の土層観察で上幅約1 m、深さ 50cm・深さ 35cm ほどあったことが知られた。断面はU字状である。 埋没状態: B軽石は微量含む程度で、砂粒やシルトの多い埋土であった。水路とみられる。 時期: 埋土の状況から、近世とみられる。

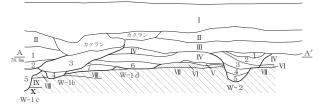
### W-3号溝跡 (第16・17図、PL.16)

位置:調査区東辺部で検出された。 重複:W-6号溝に切られ、B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態: 北からやや南西方向に湾曲しながら走る。ほぼ調査区を縦断し、検出長は47mで、北端部は調査区外へ続く。 土層断面では、上幅は1.2m以上、深さ35cm以上の規模があり、断面形も皿状の中をU字状に掘り込んだよう な形態であることが知られた。底面は細かな凹凸が顕著であった。 埋没状態:埋土の下層はB軽石を多量に含 んでいる。 遺物:混入品の土師器小片が数点出土。 時期:埋土の状況から、中世とみられる。

### W-4号溝跡 (第16·17 図、PL.16)

位置:調査区中央で検出された。 重複:W-2号溝に切られ、B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態: 南北方向に調査区を縦断し、両端部は調査区外へ続いている。検出長は45mである。上幅50cm、深さ10cm前後の規模を計る。断面形はU字状で、底面には細かな凹凸が顕著であった。 埋没状態:B軽石を多量に含む埋土であった。 時期:埋土の状況から、中世とみられる。

### C区W-1・2号溝



#### W-1 a 号溝(A-A')

1 灰黄褐色土 As-B微量、砂粒少量、鉄分多く含む。しまり有、粘性弱。シルト質。

As-B微量、砂粒多量、鉄分微量含む。しまり有、粘性弱。

#### W-1b号溝 (A-A')

3 灰茶褐色土 As-B微量、鉄分少量、砂粒・IV層のプロックを多く含む。しまり・粘性有、流砂。

4 灰褐色土 As-B微量、砂粒多く、鉄分・VII層・VIII層のブロックを少量含む。しまり・粘性強。

#### W-1 c 号溝 (A-A')

5 灰褐色土 砂粒少量、WII層のブロックを多く含む。しまり・粘性強。

### W-1d号溝 (A-A')

6 暗褐色土 As-B微量、砂粒多量に含む。しまり有、粘性弱、流砂層。 7 暗褐色砂層 As-B少量含む。しまり弱、粘性無。

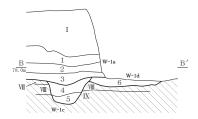
### W-2号溝(A-A')

1 灰茶褐色土 砂粒・鉄分多量。しまり有、粘性弱。シルト質。

砂粒多く含む。しまり有、粘性弱。シルト質。 2 灰褐色土

3 灰茶褐色砂層 流砂層、鉄分多く含む。しまり有、粘性無。

4 灰褐色土 砂粒少量、W層ブロック多く含む。しまり有、粘性強。 5 灰茶褐色土 As - B微量、砂粒少量、鉄分多く含む。しまり有、粘性弱。シルト質。



#### W-1 a 号溝 (B-B')

1 灰黄褐色土 As-B微量、砂粒少量、鉄分多く含む。

しまり有、粘性弱。シルト質。

As-B微量、砂粒多く、鉄分少量含む。

しまり有、粘性弱。シルト質。 As-B少量、鉄分少量含む。 3 茶褐色砂層

しまり有、粘性無。流砂層。

#### W-1 c 号溝 (B-B')

4 灰褐色土 砂粒少量、VIII層のブロックを多く含む。

しまり、粘性有。

砂粒少量、Ⅷ層のブロックを多量に含む。 5 黒褐色土

しまり有、粘性強。

#### W-1 d号溝 (B-B')

6 暗灰褐色砂層 As-B少量含む。しまり弱、粘性無。



#### W-2号溝 (B-B')

1 灰褐色土 しまり・粘性弱。シルト質。

2 明黒褐色土 砂粒少量、VII層ブロック多量に含む。しまり・粘性有。

3 灰茶褐色土 鉄分多く含む。しまり有、粘性弱。シルト質。

Ⅷ層のブロックとⅧ層のブロックを多量に、As-B微量、砂粒を多く含む。しまり・粘性有。

#### C区W-3号滞



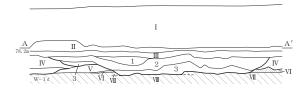
1 灰褐色土 As-B多量、鉄分少量、WI層土微量含む。しまり強、粘性弱。上部にシルト質土を含む。

### C区W-4号溝



1 暗灰褐色土 As-B多量、VII層・VIII層の小ブロックを少し含む。しまり有、粘性弱。

### C区W-5号溝



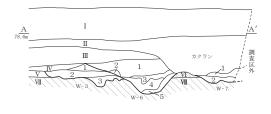
1 明茶褐色土 鉄分多量、砂粒少量含む。しまり・粘性弱い。シルト質。

2 灰茶褐色土 As-B·砂粒を少量、鉄分を多く含む。しまり有、粘性やや弱。

シルト質。

3 茶褐色土 As-B・砂粒・鉄分・VⅢ層のブロックを多く含む。しまり強、粘性弱。

### C区W-3・6・7号溝



2m 1:60

### W-3号溝

1 暗茶褐色土 As-B・砂粒少量、VIII層ブロック・鉄分を多く含む。しまり有、粘性やや弱。

 3 暗茶褐色土
 A s - B・砂粒を中量、鉄分を多量に含む。しまり強、粘性弱。

 3 暗茶褐色土
 A s - B・砂粒を多量、鉄分を少量含む。しまり強、粘性弱。

### W-6号溝

1 灰黄褐色土 As-B微量、鉄分少量含む。しまり有、粘性やや有。

鉄分少量含む。しまり有、粘性弱。シルト質。 2 灰褐色十

しまり有、粘性弱。シルト質。 3 灰茶褐色土

4 灰褐色土 As-B微量、砂粒中量、鉄分微量含む。しまり強、粘性弱。流砂層が入る。 As-B微量、鉄分微量、WIME・WIMEのブロックを多量に含む。しまり・粘性強。 5 褐色土

### W-7号溝

1 茶褐色土 As-B微量、砂粒多量に含む。しまり強、粘性弱。

2 青褐色砂層 As-B微量に含む。しまり有、粘性無。流砂層。

第17図 C区溝跡

#### W-5号溝跡 (第16·17 図、PL.16)

位置:調査区南東側で検出された。 **重複**: B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態: 南北方向に走り、29 mの長さが検出された。非常に浅いため北端は調査区内で消えてしまうが、南端部は調査区外へ続く。規模は、南端の土層断面によると上幅 2.7 m以上、深さ 30cm ほどあったことが知られた。断面形は皿状を呈し、底面には細かな凹凸が顕著であった。 **埋没状態**: 埋土中にはB軽石のほか砂粒・鉄分などを多量に含んでおり、非常に硬く締まっていた。 遺物: 混入とみられる土師器・須恵器の小片が少量、砥石の破片が1点出土している。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

#### W-6号溝跡 (第16・17図、PL.16)

位置:調査区北東隅で検出された。 重複:W-3号・7号溝を切っている。 規模・形態:北から南へ9.5 m 延び、直角に東へ走向を変えて2.5 mの長さまで検出された。両端部は調査区外へ続いている。土層断面では上幅が1.4 m以上、深さ56cmの規模であったことが知られた。断面形は幅広のV字状を呈する。 埋没状態:埋土中にはB軽石を微量含み、流砂やシルト層が多くみられることから水路と考えられる。 時期:埋土の状況から、中世から近世とみられる。

#### W-7号溝跡 (第16·17 図、PL.16)

位置:調査区北東隅で検出された。 **重複**: W - 6 号溝に切られている。 規模・形態: 南北方向に 9.5 mほど が検出された。調査区の関係で上幅は 30cm 以上あったことが知られるのみである。深さ 20cm ほどで、断面形は 皿状である。底面は凹凸が顕著であった。 **埋没状態**: 流砂層が顕著で水路とみられる。 **遺物**: 混入とみられる土師器・須恵器・陶器の小片が少量出土した。 時期: 埋土の状況から、中世から近世とみられる。

#### 3 土 坑

#### **D-1号土坑** (第18図、PL.16)

位置:調査区中央から東寄りで検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 径 50cm ほどの 円形で、深さは8cm である。断面形は逆台形を呈する。 埋没状態: B軽石を少量含む埋土であった。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

#### D-2号土坑 (第18図、PL.16)

位置:調査区中央付近で検出された。 重複:B下水田の大畦畔を切っている。 規模・形態:径30cm 弱の円形で、深さは30cm ほどである。断面形は円錐形を呈する。 埋没状態:埋土中にはB軽石と砂粒を多量に含んでいる。 時期:埋土の状況から、中世とみられる。

#### **D-3号土坑** (第18図、PL.16・17)

位置:調査区中央付近で検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 東西に長い不整な平面 形で長径は93cm、深さ6cmで、断面形は皿状を呈する。底面も凹凸が目立つ。 埋没状態: B軽石を多量に含む埋土である。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

#### **D-4号土坑** (第18図、PL.17)

位置:調査区中央付近で検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 **規模・形態**: 径 36 c mほどの円形で、深さは10cmを計る。断面形は逆台形である。 **埋没状態**: 埋土中にB軽石を多量に含む。 **時期**: 埋土の状況から、

中世とみられる。

#### D-5号土坑 (第18図、PL.17)

位置:調査区中央から北西寄りで検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 規模・形態: 長径 63cm ほどの東西に長い楕円形で、深さは 5cm ほどと浅い。皿状の断面形で、底面は凹凸が見られる。 **埋没状態**: 埋土中にはB軽石を多量に含む。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

#### D-6号土坑 (第18図、PL.17)

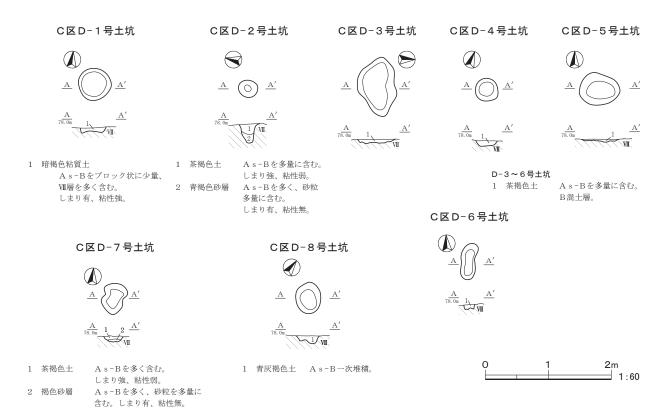
位置:調査区中央から北西寄りで検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 **規模・形態**: 南北に長い不整形な平面形で、長辺部が 60cm を計る。深さは8cm ほどで、底面には凹凸が見られる。 **埋没状態**: B軽石を多量に含む埋土である。 **時期**: 埋土の状況から、中世とみられる。

#### D-7号土坑 (第18図、PL.17)

位置:調査区中央の西寄りで検出された。 重複: B下水田面を切っている。 規模・形態: 南北に長い不整な平面形で、長辺部で50cmを計る。深さは10cmほどで、断面形は皿状である。 埋没状態: 埋土はB軽石のほか砂粒を多量に含む。 時期: 埋土の状況から、中世とみられる。

#### D-8号土坑 (第18図、PL.17)

位置:調査区中央から北西寄りで検出された。 **重複**: B下水田面を切っている。 **規模・形態**: 平面形は長径 50cm ほどの楕円形で、深さは 12cm ほどである。断面形は箱状で、鋤のような耕作痕が残る。 **埋没状態**: A s-Bの降下で直接埋没している。 **時期**: 平安末



第18図 C区土坑

## 第2表 水田区画計測表

#### A 区.

面積は畦畔下端線の範囲、田面比高は同一区画内の最大値、畦畔高は田面と畦畔の比高を示す 南北畦畔は区画の西側に、東西畦畔は区画の北側に位置するものを指す。() は推定又は残存値。

区画 No.	面積 ( m²)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中央標高 (m)	田面比高 (cm)	南北畦畔高	南北畦畔上端幅 (cm)	南北畦畔下端幅 (cm)	東西畦畔高	東西畦畔上端幅 (cm)	東西畦畔下端幅 (cm)	備考
1	(327)	( III )	( III )	( III )	( CIII )	( cm )	(28 ~ 39)	(58 ~ 66)	( cm )	( CIII )	( CIII )	
2	(321)	_	_	_		_		-	_	_	_	
3	(53. 5)	(6. 8)	_	_	_	(3.3)	(15 ~ 33)	$(42 \sim 53)$	_	_	_	
4		-	_	_	_	-	— (10 00)	-	_	_	_	
5	(164. 4)	(7.3)	_	_	_	(4.6)	(29 ~ 46)	$(61 \sim 73)$	_	_	_	
6	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	
7	(125. 3)	(10.0)	(12.7)	_	_	(4.3)	$(25 \sim 40)$	$(51 \sim 64)$	(4.6)	$(20 \sim 54)$	$(48 \sim 72)$	
8	(165. 3)	(11.4)	_	_	_	(2.6)	$(30 \sim 50)$	$(55 \sim 75)$	_	_	_	1 号南北大畦畔の西
9	(80.5)	_	20. 4	_	_	_	_	_	(3.3)	$(31 \sim 63)$	$(51 \sim 90)$	1 号南北大畦畔の西
10	(167. 1)	(12.6)	_	_	_	(7.4)	$(37 \sim 69)$	$(85 \sim 113)$	_	_	_	1 号南北大畦畔の東
11	(97. 2)	_	(21.5)	_	_	_	_	_	(4. 2)	$(25 \sim 55)$	$(47 \sim 88)$	1 号南北大畦畔の東
12	(140.8)	_	_	_	_	_	_	_		_	_	
13	(14. 5)	_	(7.1)	_	_	_	_	_	(4.3)	$(30 \sim 45)$	$(55 \sim 66)$	(半円状の区画)
14	(63. 4)	_	(11.5)	_	_	(4.3)	$(21 \sim 25)$	$(42 \sim 57)$	(4.9)	$(17 \sim 35)$	$(44 \sim 60)$	
15	(40. 2)	_	(13.3)	_	_	_	_	_	(4.5)	$(18 \sim 47)$	$(48 \sim 78)$	
16	(68.5)	_	(13.5)	_		_	_	_	(6.1)	$(14 \sim 331)$	$(40 \sim 52)$	
17	(43.4)	_	(11.5)	(78. 26)	(3. 0)	_	_	_	(5.0)	$(19 \sim 34)$	$(42 \sim 61)$	
18		_		_		(5. 9)	$(19 \sim 36)$	$(45 \sim 68)$		_	_	
19		_	_	_	_	_	_	_	(5. 3)	$(21 \sim 48)$	$(48 \sim 65)$	
20	(70)	_	11.8	_		_	_	_	4. 2	13 ∼ 22	39 ~ 45	
21		9.6	-	_		5. 6	22 ~ 32	$47 \sim 59$				
22	(29. 5)	_	(7.5)	_		_			(6. 6)	$(20 \sim 33)$	$(47 \sim 66)$	
23	3. 6	3. 5	1.7	78. 1	5. 2	5. 1	$23 \sim 64$	$56 \sim 87$	3.8	25 ~ 30	48 ~ 58	最少区画
24		_	(4.1)	_	_	_	- 17 40		(6.0)	$(10 \sim 27)$	$(36 \sim 55)$	北東に水口
25		7. 5	_	_	_	3. 7	17 ~ 46 —	$34 \sim 70$	(0, 0)	(15 . 40)	(40 - 64)	西辺に水口
26 27	(04, 44)	_		_	_	_	_	_	(6. 0)	$(15 \sim 40)$ —	$(40 \sim 64)$ $(37 \sim 50)$	
28	(94. 44)		(14.7)	_	_			_	_	_	(37 ~ 50) —	南西隅に窪み
29		(8. 1)	(7. 7)			(6. 1)	_		(2. 2)			
30	_	(10.0)	(1. 1) —	_	_	(3. 3)	_	_	(2. 2) —	_		
31		(10.0)				(3. 3)						
32	(61. 9)	_	(5.7)	_	_	_	_	_	(2. 2)	_	_	坪境交点の北西
33	_	_	(11. 5)	_	_	_	_	_	(3. 2)	(45 ~ 117)	(106 ~ 206)	坪境交点の南西
34	(85. 2)	(11.8)	(9.4)	_	_	(6.4)	(225 ~ 250)	(250 ~ 270)	(7. 9)	_	_	坪境交点の南東
35	(88. 3)	_	(6.0)	_	_	_	_	_	(2.9)	$(43 \sim 60)$	$(73 \sim 88)$	
36	(61. 8)	7. 6	(5.3)	_	_	0.9	(38 ~ 53)	(58 ~ 88)	(3.5)	$(30 \sim 43)$	$(70 \sim 86)$	
37	(24. 4)	_	7. 5	_	_	_	_	_	2. 4	$18 \sim 54$	$65 \sim 73$	
38	(51.4)	(9.2)	_	_	_	(3.4)	$(23 \sim 46)$	$(50 \sim 65)$	_	_	_	
39	(179.3)	(7.2)	(15. 1)	(77.8)	_	(3.7)	$(35 \sim 52)$	$(58 \sim 76)$	(5.8)	$(33 \sim 60)$	$(64 \sim 90)$	
40	(84. 3)	_	(19.0)	_	_	_	_	_	(2.3)	$(28 \sim 36)$	$(50 \sim 71)$	
41	_	_	(7.5)	_	_	_	_	_	(3.9)	$(28 \sim 40)$	$(56 \sim 74)$	
42	(77.4)	(8.0)	_	_	_	(6. 1)	$(21 \sim 45)$	$(56 \sim 83)$	_	_	_	
43	(90.3)	(8.1)	(11.0)	_	_	(6.1)	$(23 \sim 42)$	$(58 \sim 80)$	(3.8)	$(26 \sim 56)$	$(55 \sim 90)$	

## B 区

区画 No.	面積 ( m²)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中央標高 ( m )	田面比高 (cm)	南北畦畔高 (cm)	南北畦畔上端幅 ( cm )	南北畦畔下端幅 (cm)	東西畦畔高(cm)	東西畦畔上端幅 ( cm )	東西畦畔下端幅 ( cm )	備考
1	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	
2	_	(1.6)	_	_	_	(3.8)	$(38 \sim 48)$	$(71 \sim 79)$	_	_	_	
3	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	
4	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	
5	(45.8)	(1.9)	(8.8)	_	_	(6.6)	_	_	(5. 9)	$(22 \sim 46)$	$(55 \sim 90)$	南東隅に水口
6	_	_	(9.7)	_	_	_	_	_	(3.4)	$(22 \sim 40)$	$(53 \sim 65)$	北東隅に水口

## $C \boxtimes$

区画 No.	面積 ( m²)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中央標高 ( m )	田面比高 (cm)	南北畦畔高 (cm)	南北畦畔上端幅 ( cm )	南北畦畔下端幅 ( cm )	東西畦畔高 (cm)	東西畦畔上端幅 ( cm )	東西畦畔下端幅 ( cm )	備考
1	(129.6)	_	(16.6)	_	_	_	_	_	(5.7)	$(23 \sim 42)$	$(48 \sim 86)$	
2	_	(4.0)	4. 4	_	_	(3.7)	$(18 \sim 26)$	$(42 \sim 52)$	3.6	$16 \sim 40$	$45 \sim 72$	1 号南北大畦畔の西
3	(84. 2)	(4.6)	(20.3)	_	_	(2.9)	$(55 \sim 90)$	$(95 \sim 132)$	(3.0)	$(20 \sim 48)$	$(50 \sim 85)$	1 号南北大畦畔の東
4	(87.9)	_	(17.3)	_	_	_	_	_	(6.1)	$(19 \sim 39)$	$(49 \sim 67)$	北東隅に水口C
5	41.7	10.3	4.7	77. 84	3. 2	3. 3	$20 \sim 44$	$40 \sim 67$	3. 4	$22 \sim 35$	$60 \sim 73$	北西隅に水口C
6	(146. 2)	7.7	(18.0)	_	_	2.6	$23 \sim 55$	$55 \sim 92$	(4.0)	$(28 \sim 50)$	$(68 \sim 94)$	1 号南北大畦畔の東
7	(325.4)	(12.6)	22.4	(77. 86)	5. 7	(6.2)	$(26 \sim 39)$	$(42 \sim 71)$	7. 3	$22 \sim 80$	$47 \sim 107)$	北辺中央に水口A
8	(27.4)	(9.0)	(3.5)	77.85	1.5	(1.9)	$(31 \sim 46)$	$(46 \sim 58)$	(3.1)	$(30 \sim 40)$	$(65 \sim 70)$	1 号南北大畦畔の西
9	(129. 2)	8. 4	(18.2)	_	_	4. 5	$61 \sim 104$	$108 \sim 150$	(5.0)	$(36 \sim 73)$	$(64 \sim 114)$	1 号南北大畦畔の東
10	(57.3)	3.8	(15.8)	_	_	3. 3	$160 \sim 180$	$200 \sim 214$	(3.7)	$(19 \sim 66)$	$(53 \sim 100)$	1 号南北大畦畔の東
11	(189. 0)	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	南辺中央に水口A
12	(83. 36)	7.0	(15. 2)	_	_	2.3	$135 \sim 190$	$188 \sim 241$	(4.4)	$(36 \sim 68)$	$(67 \sim 115)$	北辺に水口B
13	_	_		_	_	_		_		_	_	南辺に水口B
14	_		_	_	_		_	_		_	_	
15	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	_	

第3表 溝跡一覧

第3	表 有	<sup>講跡一覧</sup>										
調査区	遺構No.	グリッド	走 行	上幅	規模下幅	(m) 深さ	検出長	断面型	掘込面	切合い 新>旧	時期	備考
A	W - 1	$X125 \sim 134 \\ Y45 \sim 49$	北東→南西	1.2 ~ 2.6		0.13	38	皿状	VI層より上	W-1>2 > B下水田畦畔	中世	As-B 多量。非常に固くしまっている。As-B の廃棄溝か?
A	W - 2	$X125 \sim 129  Y48 \sim 49$	北東→南西	$0.5 \sim 0.9$	$0.3 \sim 0.7$	0.32	22	逆台形	VI層より上	W-1 > 2 > B下水田畦畔	平安末 ~中世	As-B 多量、Ⅷ層の大ブロック多量 に含む。人為的埋戻し。As-B の廃 棄溝か?
A	W - 3	$X126 \sim 133$ $Y46 \sim 49$	北東→南西	0.5~1.2	$0.4 \sim 0.7$	0. 22	27	逆台形	VI層より上	> B下水田畦畔	平安末 ~中世	W-2と同様の特徴。
A	W - 4	$X141 \sim 144$ $Y48 \sim 50$	北東→南西	0.9	0.3 ~ 0.6	0.17	13	皿状	VI層より上	> B下水田畦畔	中世	流砂層や底面の鉄分沈着から、水 路跡。
А	W - 5	$X143 \sim 144$ $Y49 \sim 51$	北東→南西	0.7	$0.3 \sim 0.4$	0.20	13	U字状	VI層より上	> B下水田畦畔		As-B 多量。As-B 降下後間もない 時期か。
A	W - 6	$X145 \sim 146 \\ Y50 \sim 51$	北→南	$0.5 \sim 1.5$	$0.2 \sim 1.2$	0.08	5. 5	皿状	VI層の上			As-B 多量、WI・WII層のブロックを多量に含む。 人為的埋戻し。As-B の廃棄溝か?
A	W - 7	$X145 \sim 146 \\ Y50 \sim 53$	北→南	0.4 ~ 0.8	$0.2 \sim 0.5$	0.08	13. 5	皿状	VI層の上		平安末 ~中世	W-6と同様の特徴。
A	W - 8	$X145 \sim 146 \\ Y50 \sim 53$	北→南	1. 1	$0.5 \sim 0.6$	0. 27	13. 5	U字状	VI層より上	> B下水田畦畔	中世	As-B 中量。底面に流砂層。水路跡。
А	W - 9	$X145 \sim 146 \\ Y50 \sim 53$	北→南	0.5	$0.2 \sim 0.3$	0.12	13. 5	U字状	VI層の下	> B下水田畦畔	平安末	As-Bの一次堆積で埋没。
А	W -10	$X145 \sim 146 \\ Y50 \sim 53$	北→南	(1.5)	$0.4 \sim 0.8$	0.24	14	箱形	V層の上	<ul><li>&gt; B下水田畦畔</li><li>&gt; 1 号ピット列</li></ul>	中世	As-B 中量。流砂を中量含む。水路 跡。
А	W -11	X148 Y53 ∼ 57	北→南	0.6	0.20	0.05	20	皿状	VI層の上	<ul><li>&gt; B下水田畦畔</li><li>&gt; 1号ピット列</li></ul>		As-B、VII・VIII層のブロックを多量 に含む。As-Bの廃棄溝か?
Α	W -12	$X155 \sim 156 \\ Y60 \sim 68$	北→南 北西→南東	0.5	$0.2 \sim 0.4$	0.20	44	逆台形	VI層より上	> B下水田畦畔 W-14 > 12> 13	中世	As-B 中量、VII層の大ブロックを多量に含む。人為的埋戻しか?
A	W -13	X154 ~ 155 Y60 ~ 67	北東→南西 北西→南東	$0.5 \sim 0.9$	$0.2 \sim 0.6$	0.10	31	逆台形	VI層より上	> B下水田畦畔 W-14 > 12> 13	平安末 ~中世	As-B、VII・VII層の大ブロックを多量に 含む。人為的埋戻し。As-Bの廃棄溝か?
А	W -14	X155 Y60 ~ 66	北→南 北西→南東	0.5	$0.3 \sim 0.5$	0.10	32	逆台形	VI層より上	> B下水田畦畔 W-14 > 12> 13	中世	As-B 中量、WI・WI層の大ブロックを多量に含む。人為的埋戻し。
A	W -15	$X156 \sim 160 \\ Y62 \sim 71$	北西→南東	2.5 ~ 3	(1.0)	(0.62)	43	皿状	IV層より上	造成段より新。 B区W-2と連続 か?	近世	最上層に As-A 微量。流砂層の堆 積が顕著。水路跡 .
A	W -16	$X161 \sim 164 \\ Y67 \sim 73$	北西→南東	$0.6 \sim 1.2$	$0.2 \sim 0.5$	0.25	30	皿状	IV層より上	造成段より新。 B区W - 5と連続 か?	近世	As-B 少量。流砂層の堆積が顕著。 水路跡。
А	W -17	$X161 \sim 164 \\ Y67 \sim 74$	北西→南東			(0.60)	29	皿状?	VII層より上	W-18a > 18b > 18c > 18d > 17	中世 ~近世	As-B 微量。流砂層あり。水路跡。
A	W -18a	107 ~ 74	北西→南東			(0.16)	31	皿状	VII層より上	W-18a > 18b > 18c > 18d > 17	近代?	流砂層。水路跡。
A	W -18b	$X161 \sim 164 \\ Y67 \sim 74$	北西→南東	(4)		(0.24)	31	皿状	VII層より上	W-18a > 18b > 18c > 18d > 17	近代?	砂粒少量。
A	W -18c	$X161 \sim 164 \\ Y67 \sim 74$	北西→南東			(0.67)	31	U字状	VII層より上	B区W - 5と連続 か?	近代?	シルト質層・流砂層が顕著。水路跡。
A	W -18d	$X161 \sim 164$ $Y67 \sim 74$	北西→南東			(0.65)	31	U字状	VII層より上	B区W - 5と連続 か?	近世?	流砂層が顕著。水路跡。
A	W -19	$X163 \sim 164$ $Y72 \sim 76$	北→南	0.8~1.8	0.2 ~ 1.0	0.10	18	逆台形	VI層の下	W -20 > 19	平安末	As-Bの一次堆積で埋没。南北大畦畔に伴う水路跡。
A	W -20	$X166 \sim 173 \\ Y73 \sim 75$	東→西	0.3 ~ 0.8	0.2 ~ 0.6	0.16	28	U字	VI層の上	B下水田の畦畔を切る。 W-20 > 19	中世	As-B 多量、 <b>WI・W</b> II層のブロックを 多量に含む。
調査区	遺構No.	グリッド	走 行	上幅	規 下 幅	(m) 深さ	検出長	断面型	掘込面	切合い新〉旧	時期	備考
В	W - 1	X149 Y96	北→南?	(1.7)	0. 5	0.32	1.6	皿状 二段	IV層の上		中世 ~近世?	As-B 少量、砂粒を多く含む。
В	W - 2	X168 Y92 X171	北西→南東			0.60	2.8	皿状		A区W-15の連続か?	由#+~	As-B 微量、多量の流砂層。水路跡。
В	W - 3	$171 \times 171 \times 172 \times 171 \times 172 $	北西→南東		0.4	0. 3	2.8	逆台形二段	V層の上		近世	As-B中量含む。底に流砂層。水路跡。
В	W - 4	X171 ~ 172	北四→用果		0.4	0. 25	2.8	U字状	VI層より下			As-B 微量、砂粒を多く含む。
В	W - 5	Y89 X172 ∼ 173	北四→角東		0.6 ~ 0.8	0. 32	2.8	皿状	VI層より下	A区W-16の連続か?	近世~	As-B 微量、多量の流砂層。水路跡。
В	W - 6	Y90	北四→用果	2. 7	(0.9)	0.9 (m)	2.8	U字状	VI層より上	A区W-18の連続か? 切合い	近代	多量の流砂層。水路跡。
	遺構No.	グリッド V136 ~ 138	走行	上幅	下幅	深さ	検出長	断面型	掘込面	新 > 旧 W - 1a > 1b > 1	時期	備考
С	W - 1 a	198 ~ 99	東→西?			(0.35)		皿状	Ⅱ層より下	1c > 1 1d	近代	As-B 微量、砂粒多量。
С	W - 1 b	$X136 \sim 138$ $Y98 \sim 99$	東→西?			(0.54)		"	Ⅲ層より上	II	"	As-B 微量、流砂層あり。水路。
С	W - 1 c	$X136 \sim 138$ $Y98 \sim 99$	東→西	0. 55	0.2 ~ 0.3	0.42	4	U字状?	?	II	近世	Ⅷ層のブロック多量。砂粒少量。
С	W - 1 d	$X136 \sim 138$ $Y98 \sim 99$	東→西			0. 24	7.8	皿状?	VI層の下	)) \ D \ T \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	中世~ 近世	As-B 少量、流砂層。水路。
С	W - 2	X136 ~ 141 Y98	東→西	(0.98)		(0.50)	19. 2	U字状	IV層より上	> B下水田畦畔 W-2>4	近世	As-B 微量、流砂層あり。水路。
С	W - 3	$X142 \sim 144$ $Y86 \sim 97$	北→南西	(1.24)	$0.1 \sim 0.6$	(0.35)	47	皿状+ U字状	V層の上	> B下水田畦畔 W-6>3	中世	As-B 多量。
С	W - 4	X140 Y87 ~ 98	北→南	$0.3 \sim 0.7$	$0.2 \sim 0.4$	(0.10)	45	U字状?	VI層より上	> B下水田畦畔W - 2 > 4	"	As-B 多量。
С	W - 5	X143 ~ 144 Y90 ~ 97	北→南	(2.7)	-2.1	(0.30)	29	皿状	IV層の上	> B下水田畦畔	"	As-B中量、WII層のブロック多く含む。
С	W - 6	X143 ~ 144 Y86 ~ 87	北→南 西→東	(1.4)	0.2 ~ 0.3	0. 56	12	V字状	IV層の上	W-6 > 3 • 7	中世~	As-B 微量、流砂層・シルト層あり。 水路。
С	W - 7	X144 Y86 ∼ 88	北→南			(0. 22)	9. 5	皿状	VI層より上	W-6 > 3 • 7	"	As-B 微量、流砂層あり。水路。

第4表 土坑一覧

细木豆	\#.+#xt	₩ 11 1×	TV == TV	Net and the	規	模	(m)	477 松川工	क्य ।.	切合い	n±: #0	備考
調査区	遺構No.	グリッド	平面形	断面形	長 辺	短 辺	深さ	掘込・検出面	覆土	新 > 旧	時 期	備考
A	D - 1	X131 Y46	長円形	逆台形	0.78	0. 52	0. 24	VIより上	B混		平安末~中世	
Α	D - 2	X132 Y45	不整形	皿状	0.85	0. 52	0. 08	VIより上	B混	W - 1 >	平安末~中世	
А	D - 3	X137 Y48	長円形	皿状	0.94	0. 44	0. 14	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末~中世	
A	D - 4	X144 Y50	長円形	皿状	0.60	0. 45	0. 14	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末~中世	
A	D - 5	X146 Y54	長円形?	皿状	0.66	0. 47	0. 08	Vより上	As-B 微量		中世	
A	D - 6	X155 Y63	不整形	箱型	0.64	0. 34	0. 11	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末~中世	
Α	D - 7	X156 Y63	不整形	皿状	0.82	0.65	0. 90	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末~中世	
Α	D - 8	X157 Y67	楕円形	皿状	0.76	0. 62	0. 16	VIより上	B混		平安末~中世	
Α	D - 9	X158 Y69	長円形	皿状	0.55	0. 34	0. 07	VIより上	B混		平安末~中世	
Α	D -10	X165 Y70	楕円形	U字状	0.60	0. 52	0. 17	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末~中世	
A	D -11	X166 Y73	円形?	皿状	0.57	0. 44	0. 08	VIより上	B混土		中世	
A	D -12	X167 Y74	不整形	皿状	0. 57	0. 54	0. 10	VIより上	B混土		中世	
A	D -13	X165 Y73	長円形	U字状	0.52	0. 36	0. 11	VIより上	B混		平安末~中世	
A	D -14	X173 Y75	円形	U字状	0.42		0. 14	VIより上	B混土		中世	
A	D -15	X173 Y76	長円形	U字状	0.60	0.43	0. 24	VIより上	B混土		中世	
A	D -16	X176 Y74	不整形	皿状	0.62	0. 48	0. 08	VIより上	B混土		中世	
A	D -17	X176 Y77	不整形	箱型	0.53	0.38	0. 16	VIより上	B混土	> B水田畦畔	中世	
A	D -18	X180 Y76	不整形	U字状	0.42	0.32	0. 10	VIより上	B混土		中世	
A	D -19	X181 Y74	長円形	箱形	0.30	0. 25	0. 11	VIより上	B混		平安末~中世	
調査区	遺構No.	グリッド	平面形	断面形	規 長 辺	短 辺	(m) 深さ	掘込・検出面	覆土	切合い新 )旧	時 期	備考
С	D - 1	X142 Y92	円形	逆台形	0.50		0.08	VIより上	B混土		中世?	
С	D - 2	X141 Y92	円形	円錐形	0. 29		0.30	VIより上	B混	> B水田畦畔	中世	砂粒多量。
С	D - 3	X139 Y91	不整形	皿状	0. 93	0. 60	0.06	VIより上	B混土		中世	
С	D - 4	X139 Y92	円形	逆台形	0. 36		0. 10	VIより上	B混土		中世	
С	D - 5	X138 Y90	楕円形	皿状	0. 63	0. 46	0.05	VIより上	B混土		中世	
С	D - 6	X138 Y91	不整形	箱形	0. 60	0. 20	0. 08	VIより上	B混土		中世	
С	D - 7	X139 Y93	不整形	皿状	0. 50	0.30	0. 10	VIより上	B混		中世	砂粒多量。
С	D - 8	X138 Y89	楕円形	箱形	0. 50	0.40	0. 12	VI	As-B		平安末	耕具痕

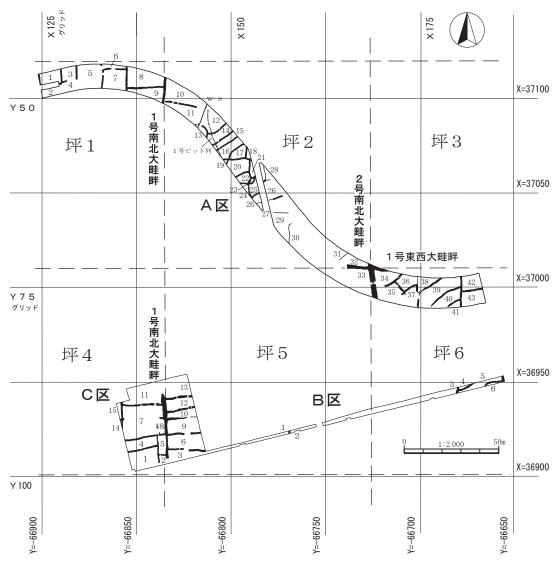
## VI まとめ

調査の結果、As-B層下の水田跡が調査区のほぼ全域で検出された。 II-2「周辺の遺跡」でも記したように、本遺跡周辺ではこれまでに多くの同時期の水田跡の調査の蓄積があり、本地域の平安時代末期の水田跡が 1 町(約 109 m) 方格の条里制の地割を踏襲していることが明らかになっている。これらの成果を参考にしつつ、今回の調査で気付いたいくつかの点について記しまとめとしたい。

#### 1 条里型区画について

A区では南北大畦畔が2条、東西大畦畔が1条検出された。このうち2号南北大畦畔と1号東西大畦畔は交差しており、坪境の交点にあたっていた。C区でもA区と連続する南北大畦畔1条が検出されたが、A区2号南北大畦畔の延長部が続くと考えられるB区では、後世の削平により畦畔は確認できなかった。

従来の調査からは、この周辺の条里地割の南北基準線は、磁北から2°前後西に傾いていると考えられている。 今回の調査結果をみると、A区2号南北大畦畔の走向は調査区内の状況でみる限り、これよりさらに西へ傾くようにみえる。また、これに交差する1号東西大畦畔はほぼ東西方向の走向で、2号南北大畦畔とは直交していない状況であった。一方、A区とC区の1号南北大畦畔を結ぶ軸線は、磁北からわずかに西に傾く位置となり、前



第19図 条里型区画推定図

記の2°前後の傾きを考えることはできなかった。むしろN-30′-Wほどの南北の基準線を想定すると、坪境交点であるA区2号南北大畦畔と1号東西大畦畔の交差部との距離もちょうど1町分の109mとなる。また、東西大畦畔の走向もこの南北基準線とほぼ直交する。これらから区画基準線を想定すると第19回のようになり、南北3列、東西2列の6坪の条里型区画が推定された。

ここで想定した条里区画の基準線は今回の調査区内のみからの結果であり、従来の周辺部での検討結果とは異なるものとなった。地形の影響などによって、同一の設計基準であっても多少の方位の歪みや距離の誤差が生じてくる可能性も考えられる。今回は及ばなかったがさらに広域な範囲での検討が必要である。

#### 2 水田区画と利水について

各坪内の水田の区画については、北西の坪1(A区西端部)や南西の坪4(C区)、さらに中央南の坪5(C区)の内部が比較的整然とした区画であるのに対し、中央北の坪2(A区中央部)では極めて不整形で変則的な区画が連続していた。南東の坪6(A区東端部)の内部もやや不定形で棚田のような景観を呈するが、南北畦畔はほぼ南北方向に沿っており、東西の畦畔の斜行が大きいことによる。水田の床土であるVII層上面の標高をみると、A区の西端部と比較して東端部では80cm以上低く、中でも1号、2号南北大畦畔の間の坪2では55cmの比高差があり、他と比べて特にこの間の傾斜が強い。この傾斜に対応するため、幅が狭く南西から北東方向に長い区画を棚田状に配しているものとみられる。さらに変則的なA区17から27付近の区画についても、基本的には地形上の制約による水利の関係から生じたものであろう。

条里型水田における配水は、水口を用いた田越しの掛け流しが主であるためか、これまで灌漑用の用水路についての発見例は少ない。今回の調査では2号南北大畦畔に伴ってW-19号溝が検出された。これまでにも中央に溝が走る大畦畔は周辺遺跡でいくつか検出されているが、今回は坪境交点という特別な位置でもあるためか、水利の形態に関する新たな知見が得られた(第9図)。水口Aは東西大畦畔を切っているようで、坪境を越えての掛け流しになると思われる。一方、水口Bは区画32から南の水田への水口ではなくW-19号溝へ続いており、余分な水を水路に戻すための施設であった。さらに水口Cについても、区画34の水田面やW-19号溝の底面よりもかなり高い位置にあり、水口底面の傾斜からもW-19号溝からの引水ではなく、区画34で余った水の排水のための施設であるとみられた。このようにすべての水を掛け流しで配水するのみではなく、余水は水路にもどしていることが判明した。また、W-19号溝内の堰状の施設の付設からみて、排水後は下流側の区画で再び取り込まれて利用されているものと考えられる。

#### 3 休耕田について

C区の区画 9・10・12 では、水田面に深い凹凸が顕著に認められた。またこれらの間の畦畔についてはほとんど高さがなく、幅も一定せずに屈曲している状況で、休耕田であったものと考えられた。同様の状況が南部拠点地区遺跡群No.6 でも指摘されている。また、As-B の降下の時期については 9 月頃と考えられていることから、水田面に鋤の耕起痕が顕著に認められた A 区の区画 26 についても、As-B 降下の直前には稲株のある水田面とはなっていなかったことを示しているものであろう。 A 区中央付近で調査区を縦断して検出された 1 号ピット列は、遺構の性格は明らかではないが、区画  $12 \cdot 14 \cdot 15 \cdot 16$  の水田面のみならず畦畔も横切って穿たれていた。これらの区画もまた As-B 降下時には水田として利用されていなかったことが考えられる。

#### 主な参考文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『南部拠点地区遺跡群No.1』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『南部拠点地区遺跡群No.2』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010『南部拠点地区遺跡群No.3』前橋市教育委員会 2010『南部拠点地区遺跡群No.4』前橋市教育委員会 2010『南部拠点地区遺跡群No.5』前橋市教育委員会 2011『南部拠点地区遺跡群No.6』前橋市教育委員会 2011『南部拠点地区遺跡群No.6』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998『横手湯田Ⅱ遺跡・西田Ⅱ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999『西田Ⅲ遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『西田遺跡・村中遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『鶴光路榎橋遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『徳丸仲田遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001『亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』

# 写 真 図 版



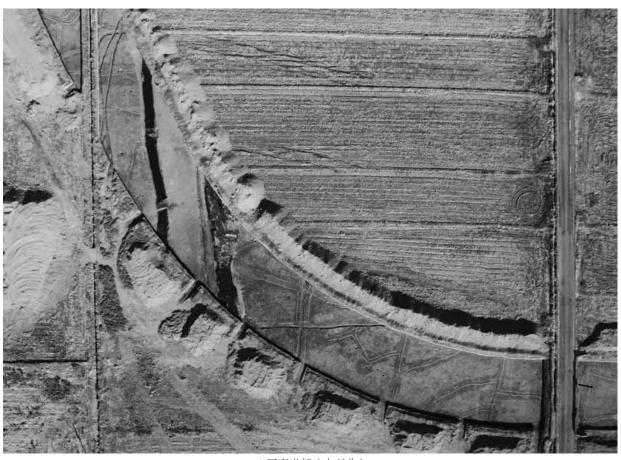
調査地より浅間山方向を望む(右後方は榛名山)(南東から)



調査区全景(合成写真)(上が北)



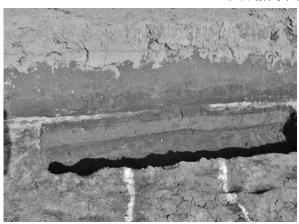
A区西半部 (上が北)



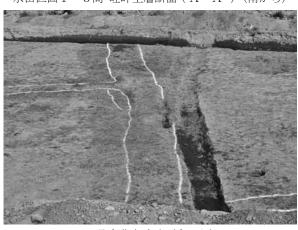
A区東半部(上が北)



A区西端部水田区画1~9 (上が北



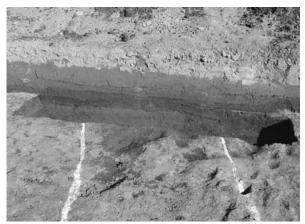
水田区画 $1 \cdot 3$ 間 畦畔土層断面( $A \sim A'$ )(南から)



1号南北大畦畔(南から)



1号南北大畦畔(上が北)



1号南北大畦畔 土層断面 (B~B') (南から)



水田区画 12 ~ 28 (上が北東)





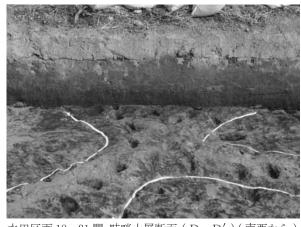
水田区画 12 ~ 27 (南から)



水田区画 14・15 間 畦畔土層断面 (C~C') (南西から)



水田区画23(南西から)



水田区画 18・21 間 畦畔土層断面 (D~D')(南西から)



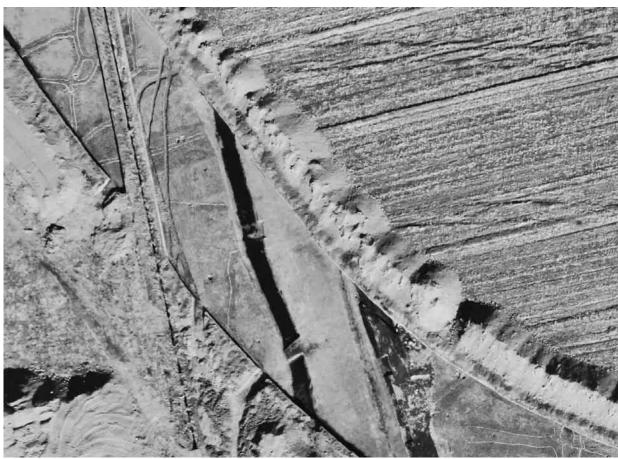
水田区画 26 耕作痕(西から)



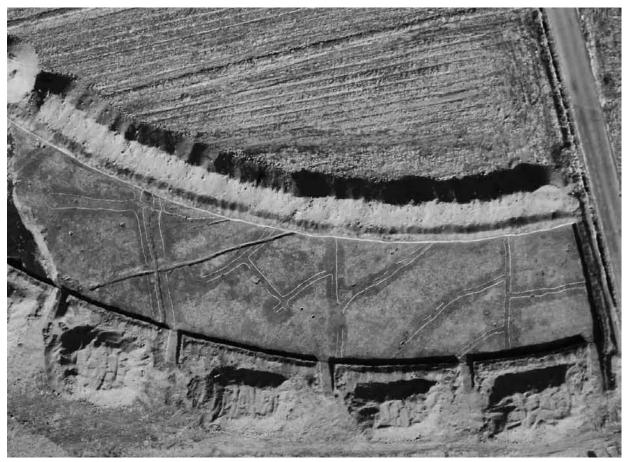
水田区画 21・28 間畦畔土層断面(E~E′)(南から)



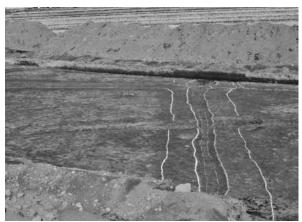
水田区画 28 南西隅部 窪地 (南から)



A区中央付近(上が北)



A区東端部水田区画 31 ~ 43 (上が北)





2号南北・1号東西大畦畔(西から)



2号南北大畦畔・W-19号溝(北から)



2号南北・1号東西大畦畔 交差部(北から)



2号南北・1号東西大畦畔 交差部 (西から)





2号南北大畦畔・W-19号溝 土層断面(F~F')(北から)



東端部水田区画 36 ~ 43 (北東から)



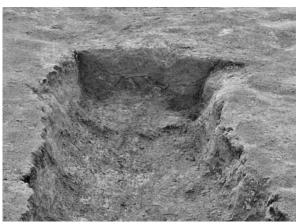
水田区画 39・42 間 畦畔土層断面 ( F~F' )(南から )



W-1~3号溝 (西から)



₩-1・2号溝 土層断面 (東から)



W-3号溝 土層断面(東から)



W-4・5号溝(南西から)



₩-6~10号溝(南西から)



₩-11号溝 土層断面(南から)



₩-12号溝(中)・13号溝(左)・14号溝(右)土層断面(南から)



W-4号溝(左)、W-5号溝(右)土層断面(南西から)



W-8号溝(左), W-9号溝(右)土層断面(南西から)



₩-12~14号溝(南から)



₩-15号溝(南から)







₩-16号溝 土層断面 (A~A') (南から)



W-17・18 号溝 土層断面(A~A')(南から)



₩-20号溝(南西から)



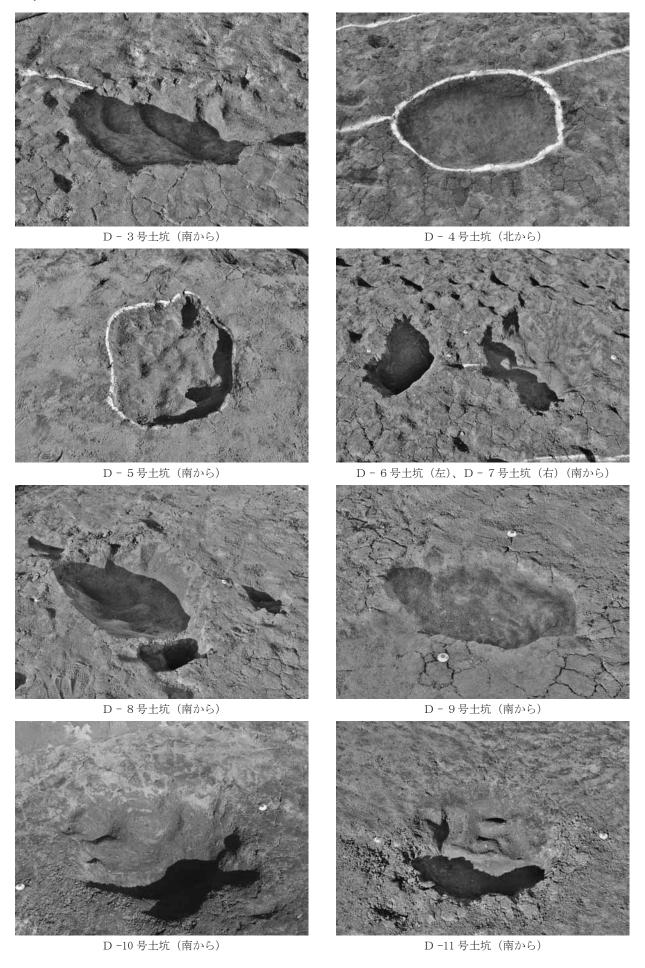
W-20 号溝 土層断面 (A~A') (南から)

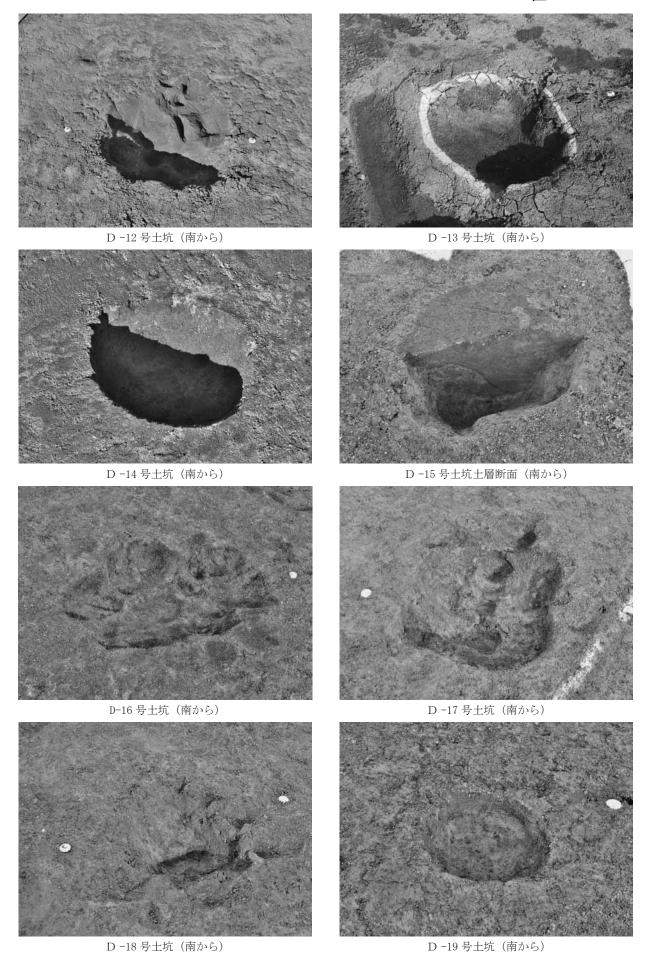


D-1号土坑(南から)



D-2号土坑 (南から)





# B区 PL. 12

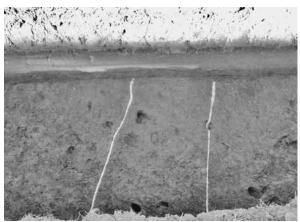


B区東半部 (上が北)

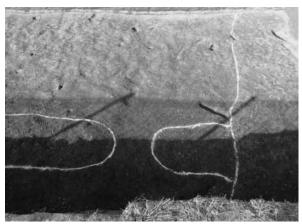




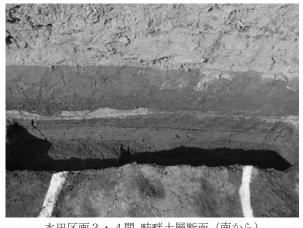
B区東半部 (東から)



水田区画1・2間 畦畔 (南から)



水田区画5・6間 水口(南から)



水田区画3・4間 畦畔土層断面 (南から)



₩-1号溝(南から)



- 2号溝 (南から)



W-2号溝 土層断面 (南東から)



₩-3~6号溝 (南東から)



W-3号溝(左)、W-4号溝(右)(南から)

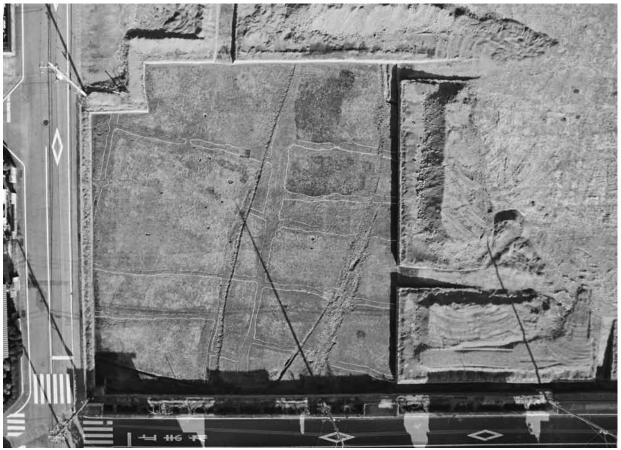


₩-5号溝(南から)



₩-6号溝(南から)

# C区 PL. 14



C区全景 (上が北)

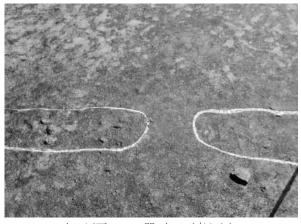


C区全景 (左が北)





1号南北大畦畔、W-4号溝(北から)



水田区画7・11間 水口(南から).



水田区画 12・13 間 水口 (南から)



水田区画4・7間 畦畔土層断面(東から)



W-1・2号溝 (西から)

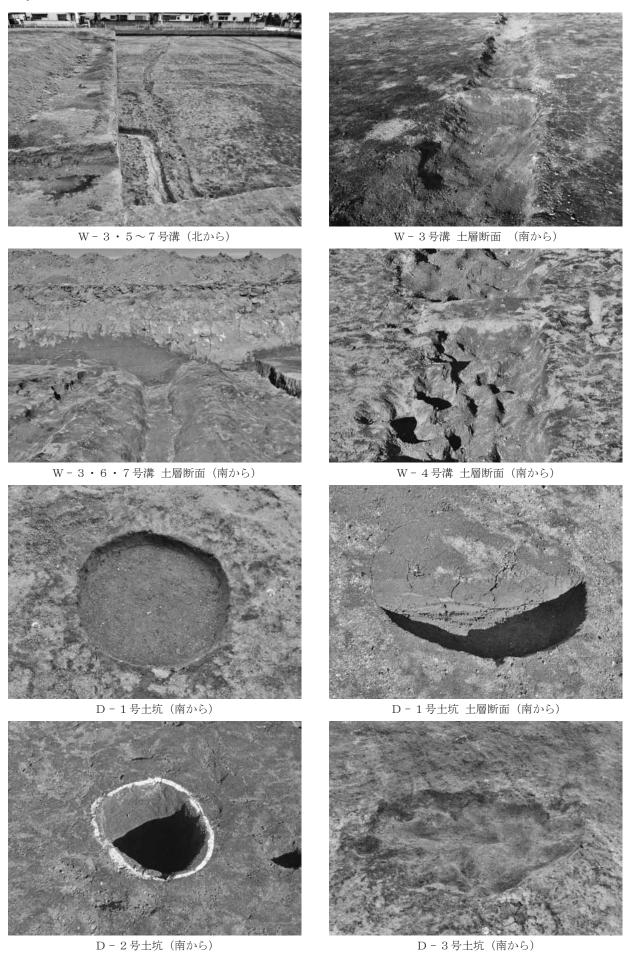


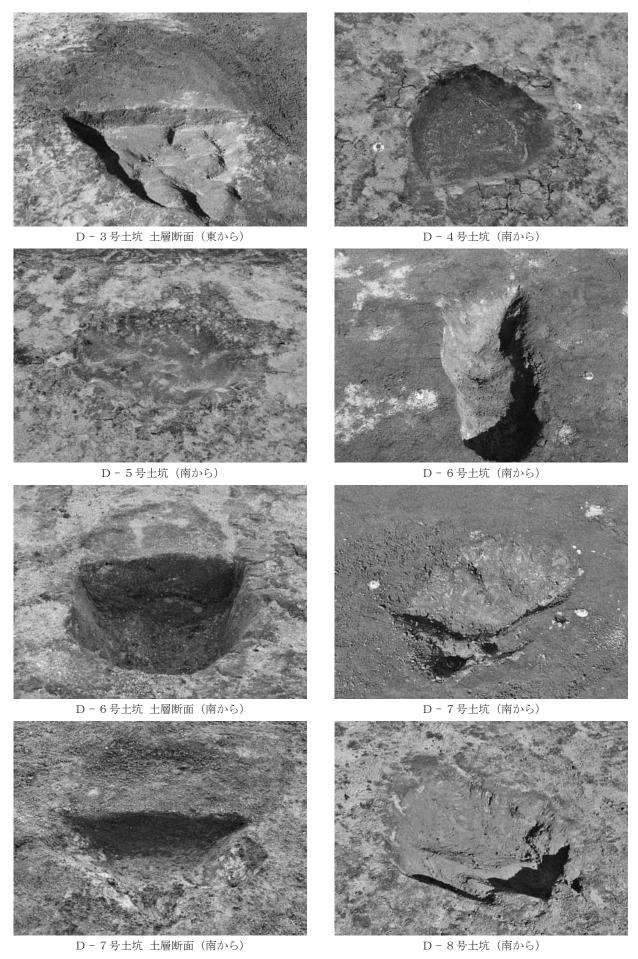
W-1号溝 土層断面(東から)



W-2号溝 土層断面(東から)

# C区 PL. 16





# 抄 録

ふりがな	なんぶきょてんちくいせきぐん なんばーはち										
書名	南部拠点地区遺跡群 No.8										
副書名	前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書										
巻次											
シリーズ名											
編著者名	福田貫之 井上 太										
<b>須佳州明</b>	有限会社毛野考古学研究所										
編集機関	〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1										
発行機関	前橋市教育委員会										
光17 機関	〒 371-0853 群馬県前橋市総社町 3-11- 4 Tu 027-280-6511										
発行年月日	西暦 2014 年 3 月 26 日										

ふりがな	ふりがな	コード		北緯 東経 (世界測地系)		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(世界》	則地米)			
なん。ぎょてん 南部地域 ちくいせきぐん 地区遺跡群 なんぱー はち No. 8	ばれまけんまさばし しかめさとまち 群馬県前橋市亀里町 943-2, 944-4, 961-4, 962-3, 962-6, 963-4, 963-5, 964-4, 965-5, 967-2, 968-4, 969-3, 971-4, 971-5, 971-6, 972-5, 972-6	10201	00785 (25G82)	36° 19′ 58″	139° 5′ 22″	20131118 ~ 20140127	6, 365 m²	土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
なんぶきょてん	生産跡	平安時代末	As-B層下水田跡・	奈良~平安時代の土	平安時代末期の条
ち く い せきぐん			溝跡	師器・須恵器片	里水田の坪境を検
地区遺跡群					出。
No. 8		中世以降	溝跡・土坑	中・近世の陶磁器片	

## 南部拠点地区遺跡群No. 8

前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書

> 平成 26 年 3 月 24 日 印刷 平成 26 年 3 月 26 日 発行

編集/有限会社毛野考古学研究所

発行/前橋市教育委員会

群馬県前橋市総社町3--11-4

印刷/朝日印刷工業株式会社